

学生の確保の見通し等を記載した書類 別添資料

目 次

- 1 近隣都県の公衆衛生大学院の入学者等の状況
- 2 静岡社会健康医学大学院大学社会健康医学研究科社会健康医学専攻（博士後期課程）
（仮称）への入学意向に関するアンケート調査報告
- 3 近隣都県の公衆衛生大学院の学生納付金
- 4 日本学術会議『わが国の公衆衛生向上に向けた公衆衛生大学院の活用と機能強化』（抜粋）
- 5 中央教育審議会『新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて一答申』（抜粋）
- 6 「保健医療 2035」策定懇談会『保健医療 2035 提言書』（抜粋）
- 7 静岡社会健康医学大学院大学社会健康医学研究科社会健康医学専攻（博士後期課程）
（仮称）の修了者に対する採用意向に関するアンケート調査報告

近隣都県の公衆衛生大学院の入学者等の状況

(*1)

区分	大学院名	研究科	課程	専攻	コース等	入学定員	2019年度			2020年度			2021年度			充足率 平均
							志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率	
国立	東京大学大学院	医学	博士後期	健康科学・ 看護学(*2)	健康科学講座	25	41	36	105.9%	37	26	76.5%	16	14	41.2%	74.5%
					看護学講座											
					国際保健学 (*2)	-	9									
公立	神奈川県立保健 福祉大学大学院	ヘルスイノベー ション	博士 (*3)	ヘルスイノ ベーション	-	2	-	-	-	-	-	5	5	250.0%	250.0%	
私立	慶応義塾大学 大学院	健康マネジメント	後期博士	公衆衛生・ス ポーツ健康科 学	公衆衛生学	5	7	6	120.0%	11	8	160.0%	12	12	240.0%	173.3%
					医療マネジメント学											
					スポーツマネジメント学											
	帝京大学大学院	公衆衛生学	博士後期	公衆衛生学	-	6	10	8	133.3%	10	9	150.0%	8	7	116.7%	133.3%
	聖路加国際大学 大学院	公衆衛生学	博士後期	公衆衛生学	-	3	2	1	33.3%	6	6	200.0%	5	4	133.3%	122.2%

(全体平均) 150.7%

- *1 本表は、各大学院がホームページで公表しているデータ(一部聞き取り結果)をまとめたものである。
 *2 東京大学大学院は、公表データの関係上、2専攻を合わせた数値を記載しており、10月入学分は含まれていない。
 *3 神奈川県立保健福祉大学大学院は、2021年度開設。

静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科
社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）への
入学意向に関するアンケート調査報告

令和3年12月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）への
入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和5年4月に予定している静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の開設に向けて、静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）（以下、社会健康医学専攻（博士後期課程）とする。）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象者及び調査方法

調査対象の種別	対象数	調査方法
① 医師	453	個人宛に送付
② 本学修士課程科目等履修生	3	
③ 大学の教職員・学生	310	団体等に送付し、在籍の博士後期課程に進学する可能性のある方に配布
④ 病院・企業等の職員	685	
⑤ 本学修士課程在学学生	19	学内システムを通じて実施
総計	1,470	

社会健康医学専攻（博士後期課程）への進学を検討すると見込まれる、上表の①～⑤を対象に調査を行った。

調査方法は下記の通りである。

1) ①医師、②本学修士課程科目等履修生

アンケート用紙及び社会健康医学専攻（博士後期課程）の概要を個人宛に郵送し、調査を実施した。回答用紙については、回答者から一般財団法人日本開発構想研究所へ直接郵送。

2) ③大学の教職員・学生、④病院・企業等の職員

アンケート用紙及び社会健康医学専攻（博士後期課程）の概要を、大学、病院・企業等の管理者・採用担当者等に送付し、管理者・採用担当者等から、当該団体等に在籍している博士後期課程に進学する可能性のある教職員、学生、医療専門職・研究者等に配布し、調査を実施した。回答用紙については、回答者から一般財団法人日本開発構想研究所へ直接郵送。

※ウェブでの回答も可能としたが、全て郵送での回答であった。

3) ⑤本学修士課程在学学生

学内システムを通じ、社会健康医学専攻（博士後期課程）の概要を在学学生に示し、アンケート調査を実施した。在学学生は、学内システムのウェブアンケートシステムを通じ回答し、回答データを大学から一般財団法人日本開発構想研究所へ提供。

この結果、156 人から有効回答があった。集計結果より、社会健康医学専攻（博士後期課程）への入学意向を分析した。

(3) 調査実施期間

令和3年10月～11月

(4) 有効回収率等

調査対象者数：1,470人

有効回答者数：156人

有効回収率：約10.6%（有効回答者数156人 ÷ 調査対象者数1,470人）

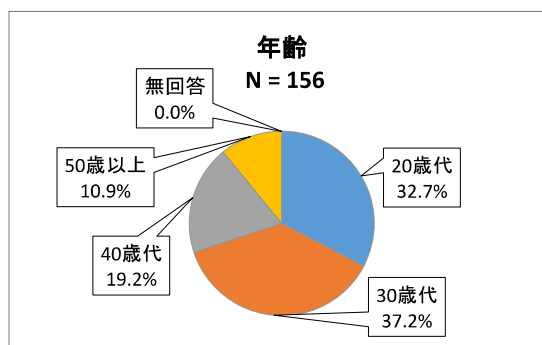
※静岡社会健康医学大学院大学にて設置を構想している社会健康医学研究科 社会健康医学専攻(博士後期課程)は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。また大学名、研究科名称についても省略し、単に社会健康医学専攻(博士後期課程)として表記した。

2. 調査結果

(1) 年齢について

年齢について調査した結果、回答者 156 人のうち、「30 歳代」が 58 人 (37.2%) と最も多く、次いで「20 歳代」が 51 人 (32.7%)、「40 歳代」30 人 (19.2%)、「50 歳以上」17 人 (10.9%) の順になっている。

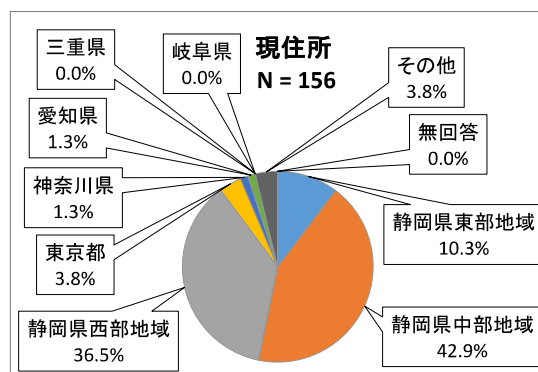
年齢			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	20歳代	51	32.7
2	30歳代	58	37.2
3	40歳代	30	19.2
4	50歳以上	17	10.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	156	100



(2) 現住所について

現住所について調査した結果、回答者 156 人のうち、「静岡県中部地域」が 67 人 (42.9%) と最も多く、次いで「静岡県西部地域」57 人 (36.5%)、「静岡県東部地域」16 人 (10.3%)、「東京都」6 人 (3.8%)、「その他」6 人 (3.8%)、「神奈川県」2 人 (1.3%)、「愛知県」2 人 (1.3%) の順になっている。

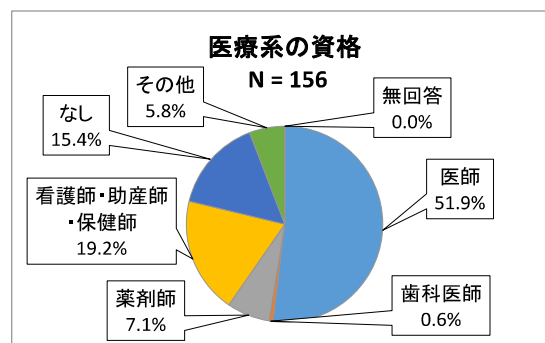
現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県東部地域	16	10.3
2	静岡県中部地域	67	42.9
3	静岡県西部地域	57	36.5
4	東京都	6	3.8
5	神奈川県	2	1.3
6	愛知県	2	1.3
7	三重県	0	0.0
8	岐阜県	0	0.0
9	その他	6	3.8
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	156	100



(3) 医療系の資格について

医療系の資格について調査した結果、回答者 156 人のうち、「医師」が 81 人（51.9%）と最も多く、次いで「看護師・助産師・保健師」30 人（19.2%）、「なし」24 人（15.4%）、「薬剤師」11 人（7.1%）、「その他」9 人（5.8%）、「歯科医師」1 人（0.6%）の順になっている。

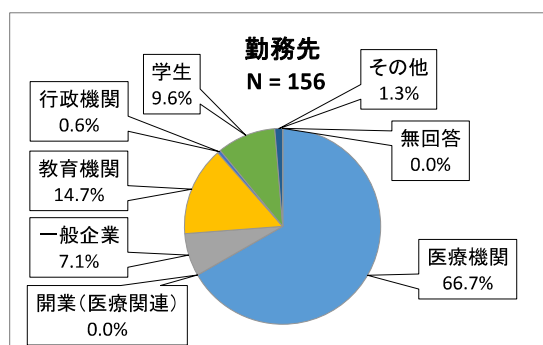
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医師	81	51.9
2	歯科医師	1	0.6
3	薬剤師	11	7.1
4	看護師・助産師・保健師	30	19.2
5	なし	24	15.4
6	その他	9	5.8
	無回答	0	0.0
	N (%へ -ス)	156	100



(4) 勤務先について

現在の勤務先について調査した結果、回答者 156 人のうち、「医療機関」が 104 人（66.7%）と最も多く、次いで「教育機関」23 人（14.7%）、「学生」15 人（9.6%）、「一般企業」11 人（7.1%）、「その他」2 人（1.3%）、「行政機関」1 人（0.6%）の順になっている。

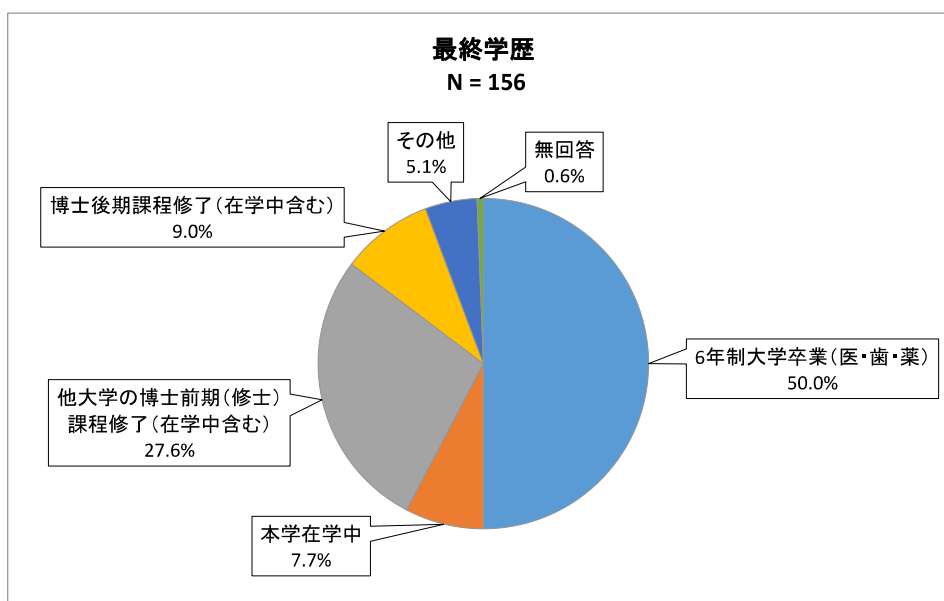
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医療機関	104	66.7
2	開業 (医療関連)	0	0.0
3	一般企業	11	7.1
4	教育機関	23	14.7
5	行政機関	1	0.6
6	学生	15	9.6
7	その他	2	1.3
	無回答	0	0.0
	N (%へ -ス)	156	100



(5) 最終学歴について

最終学歴について調査した結果、回答者 156 人のうち、「6 年制大学卒業（医・歯・薬）」が 78 人（50.0%）と最も多く、次いで「他大学の博士前期（修士）課程修了（在学中含む）」43 人（27.6%）、「博士後期課程修了（在学中含む）」14 人（9.0%）、「本学在学中」12 人（7.7%）、「その他」8 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」1 人（0.6%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	6年制大学卒業（医・歯・薬）	78	50.0
2	本学在学中	12	7.7
3	他大学の博士前期（修士）課程修了（在学中含む）	43	27.6
4	博士後期課程修了（在学中含む）	14	9.0
5	その他	8	5.1
	無回答	1	0.6
	N（%ベース）	156	100



(6) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について

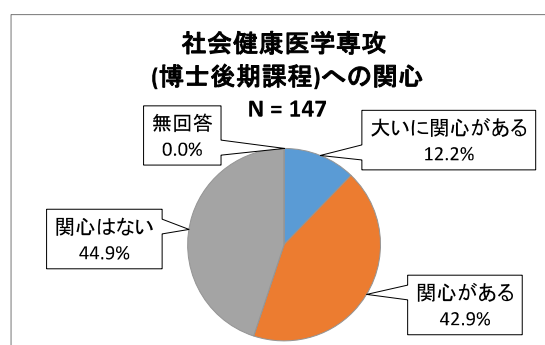
「(5) 最終学歴について」にて「その他」と回答した8人と「無回答」1人を除く147人に、社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について調査した。

その結果、「関心はない」が66人（44.9%）と最も多く、次いで「関心がある」63人（42.9%）、「大いに関心がある」18人（12.2%）となっている。

なお、「大いに関心がある」、「関心がある」の合計81人（55.1%）が社会健康医学専攻（博士後期課程）に関心を示している。

社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに関心がある	18	12.2
2	関心がある	63	42.9
3	関心はない	66	44.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	147	100



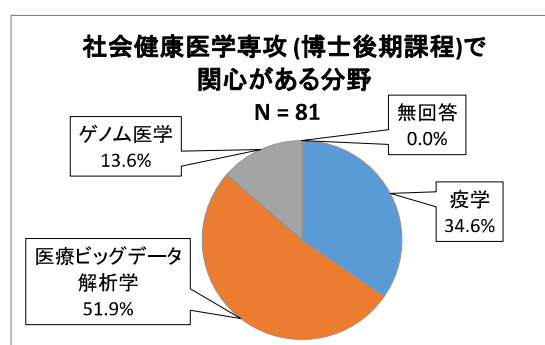
(7) 社会健康医学専攻（博士後期課程）で関心がある分野について

「(6) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について」にて関心を示した81人に、関心がある分野について調査した。

その結果、「医療ビッグデータ解析学」が42人（51.9%）と最も多く、次いで「疫学」28人（34.6%）、「ゲノム医学」11人（13.6%）の順になっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）で関心がある分野

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	疫学	28	34.6
2	医療ビッグデータ解析学	42	51.9
3	ゲノム医学	11	13.6
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	81	100



(8) 社会健康医学専攻（博士後期課程）に関心がある理由について

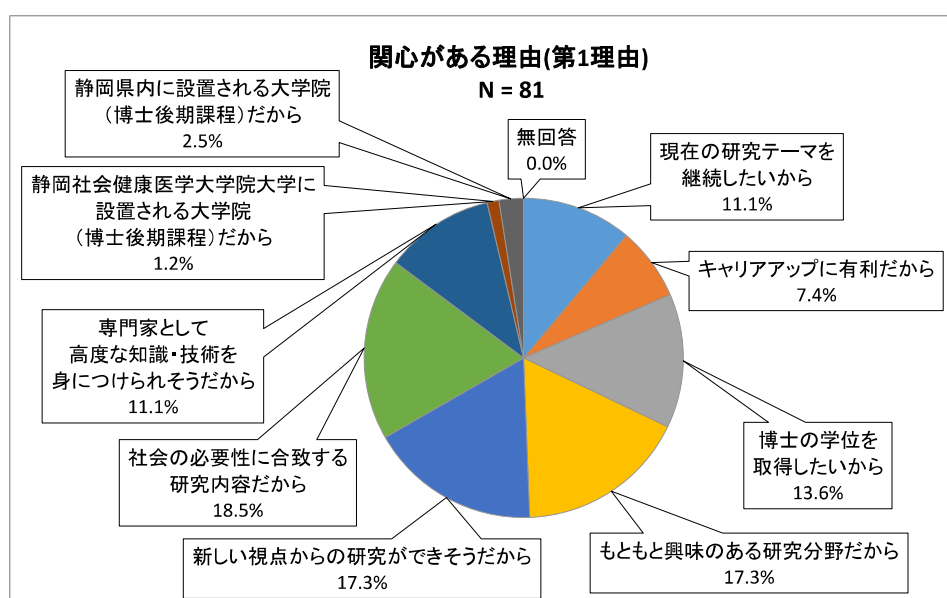
8-1 関心がある理由（第1理由）

「(6) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について」にて関心を示した 81 人に、関心がある理由について調査した。

その結果、「社会の必要性に合致する研究内容だから」が 15 人（18.5%）と最も多く、次いで「もともと興味のある研究分野だから」14 人（17.3%）、「新しい視点からの研究ができそうだから」14 人（17.3%）、「博士の学位を取得したいから」11 人（13.6%）、「現在の研究テーマを継続したいから」9 人（11.1%）、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」9 人（11.1%）、「キャリアアップに有利だから」6 人（7.4%）、「静岡県内に設置される大学院（博士後期課程）だから」2 人（2.5%）、「静岡社会健康医学大学院大学に設置される大学院（博士後期課程）だから」1 人（1.2%）の順になっている。

関心がある理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現在の研究テーマを継続したいから	9	11.1
2	キャリアアップに有利だから	6	7.4
3	博士の学位を取得したいから	11	13.6
4	もともと興味のある研究分野だから	14	17.3
5	新しい視点からの研究ができそうだから	14	17.3
6	社会の必要性に合致する研究内容だから	15	18.5
7	専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	9	11.1
8	静岡社会健康医学大学院大学に設置される大学院（博士後期課程）だから	1	1.2
9	静岡県内に設置される大学院（博士後期課程）だから	2	2.5
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	81	100



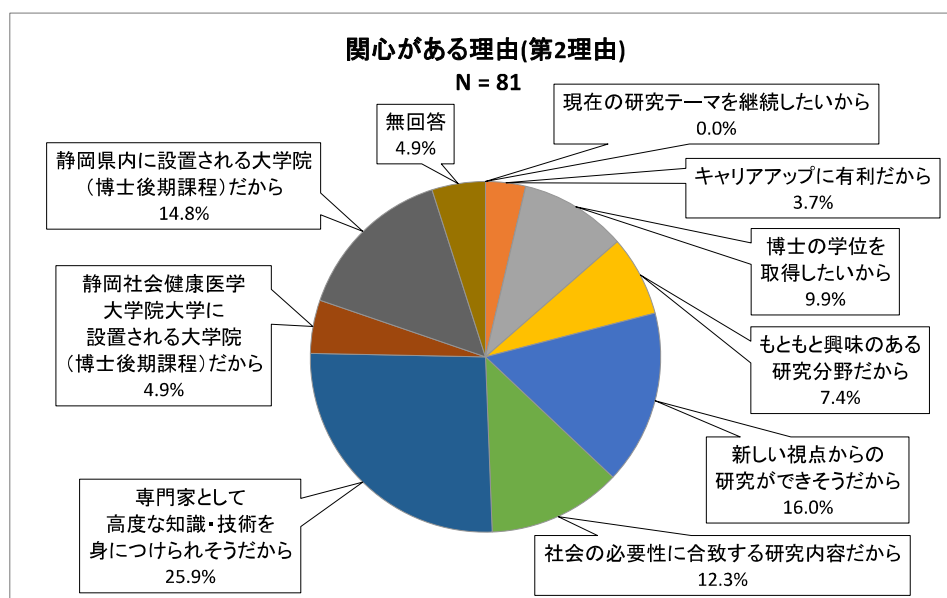
8-2 関心がある理由（第2理由）

「(6) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について」にて関心を示した 81 人に、関心がある理由について調査した。

その結果、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が 21 人（25.9%）と最も多く、次いで「新しい視点からの研究ができそうだから」13 人（16.0%）、「静岡県内に設置される大学院（博士後期課程）だから」12 人（14.8%）、「社会の必要性に合致する研究内容だから」10 人（12.3%）、「博士の学位を取得したいから」8 人（9.9%）、「もともと興味のある研究分野だから」6 人（7.4%）、「静岡社会健康医学大学院大学に設置される大学院（博士後期課程）だから」4 人（4.9%）、「キャリアアップに有利だから」3 人（3.7%）の順になっている。 ※「無回答」4 人（4.9%）

関心がある理由(第2理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現在の研究テーマを継続したいから	0	0.0
2	キャリアアップに有利だから	3	3.7
3	博士の学位を取得したいから	8	9.9
4	もともと興味のある研究分野だから	6	7.4
5	新しい視点からの研究ができそうだから	13	16.0
6	社会の必要性に合致する研究内容だから	10	12.3
7	専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	21	25.9
8	静岡社会健康医学大学院大学に設置される大学院（博士後期課程）だから	4	4.9
9	静岡県内に設置される大学院（博士後期課程）だから	12	14.8
	無回答	4	4.9
	N（%←ス）	81	100



(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への受験意向について

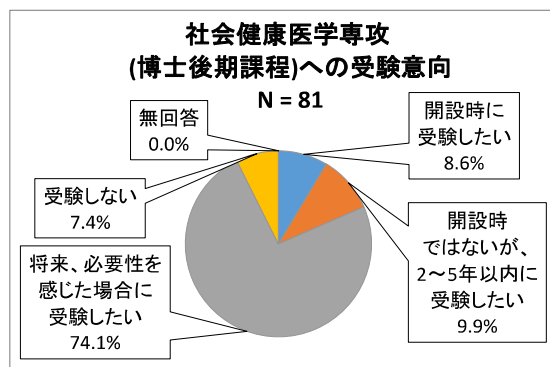
「(6) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について」にて関心を示した 81 人に、社会健康医学専攻（博士後期課程）への受験意向について調査した。

その結果、「将来、必要性を感じた場合に受験したい」が 60 人（74.1%）と最も多く、次いで「開設時ではないが、2～5年以内に受験したい」8 人（9.9%）、「開設時に受験したい」7 人（8.6%）、「受験しない」6 人（7.4%）の順になっている。

なお、「開設時に受験したい」、「開設時ではないが、2～5年以内に受験したい」、「将来、必要性を感じた場合に受験したい」の肯定的な回答を合計すると、75 人（92.6%）となっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	開設時に受験したい	7	8.6
2	開設時ではないが、2～5年以内に受験したい	8	9.9
3	将来、必要性を感じた場合に受験したい	60	74.1
4	受験しない	6	7.4
	無回答	0	0.0
	N (% ^ペ -ス)	81	100



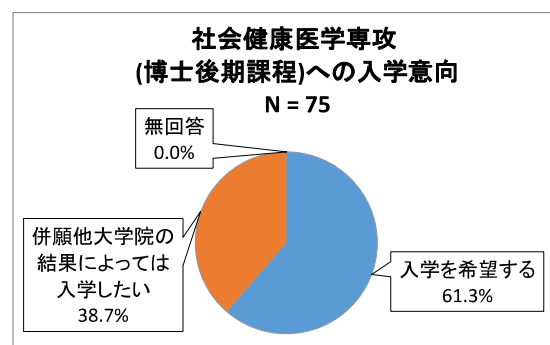
(10) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への入学意向について

「(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への受験意向について」にて肯定的な回答を示した 75 人に、社会健康医学専攻（博士後期課程）に合格した場合入学を希望するかについて調査した。

その結果、「入学を希望する」が 46 人（61.3%）、「併願他大学院の結果によっては入学したい」が 29 人（38.7%）の順になっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	46	61.3
2	併願他大学院の結果によっては入学したい	29	38.7
	無回答	0	0.0
	N (% ^ペ -ス)	75	100



3. 調査結果のまとめ

「(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への受験意向について」と、「(10) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への入学意向について」の調査結果をクロス集計した結果は下表のとおりである。

受験意向 × 入学意向

上段:度数 下段:%		受験意向			
		合計	開設時に受験したい	開設時ではないが、2～5年以内に受験したい	将来、必要性を感じた場合に受験したい
入学意向	全体	75 100.0	7 9.3	8 10.7	60 80.0
	入学を希望する	46 100.0	6 13.0	7 15.2	33 71.7
	併願他大学院の結果によっては入学したい	29 100.0	1 3.4	1 3.4	27 93.1

(直近の入学意向について)

「開設時に受験したい」と回答した7人のうち、「入学を希望する」と回答した者は6人となり、社会健康医学専攻（博士後期課程）の入学定員2人に対し、3倍の入学意向を示している。この他に「併願他大学院の結果によっては入学したい」と回答した者も1人いる。

(中期的な入学意向について)

「開設時ではないが、2～5年以内に受験したい」と回答した8人のうち、「入学を希望する」と回答した者は7人となり、社会健康医学専攻（博士後期課程）の入学定員2人に対し、3.5倍の入学意向を示している。この他に「併願他大学院の結果によっては入学したい」と回答した者も1人いる。

(長期的な入学意向について)

「将来、必要性を感じた場合に受験したい」と回答した60人のうち、「入学を希望する」と回答した者は33人となり、社会健康医学専攻（博士後期課程）の入学定員2人に対し、16.5倍の入学意向を示している。この他に「併願他大学院の結果によっては入学したい」と回答した者も27人いる。

なお、内部進学意向を確認するために、修士課程在学生の回答者 17 人の回答データのみで「(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への受験意向について」と、「(10) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への入学意向について」の調査結果を対象にクロス集計した結果は下表のとおりである。

修士課程在学生のみの 受験意向 × 入学意向

上段:度数 下段:%		受験意向			
		合計	開設時に受験したい	開設時ではないが、2～5年以内に受験したい	将来、必要性を感じた場合に受験したい
入学意向	全体	14 100.0	6 42.9	4 28.6	4 28.6
	入学を希望する	12 100.0	5 41.7	3 25.0	4 33.3
	併願他大学院の結果によっては入学したい	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 -

注) 17 人の回答者のうち、3 人については、「社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について」にて、「関心がない」と回答しているため、本表の母数は 14 人となる。

以上の調査結果と、調査対象以外からの進学も考えられることから、社会健康医学専攻（博士後期課程）の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

4. 補足

アンケート調査時に示した「静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要（リーフレット）」について、内容の一部に不備があった。

(単位：円)

初年度学費（他の大学院を含む）	大学名・研究科名		入学金	授業料	その他	初年度学費	
		静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科	県内居住者 県外居住者	141,000 366,600	535,800	—	県内居住者 県外居住者
	神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科	県内居住者 県外居住者	282,000 564,000	535,800	—	県内居住者 県外居住者	817,800 1,099,800
	東京大学大学院 医学系研究科		282,000	520,800	—		802,800
	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科		—	660,000	正:70,600 誤:706,000	①	730,600
	帝京大学大学院 公衆衛生学研究科	学内出身者 学外出身者	204,000 正:306,000 誤:400,000	795,600	208,340	学内出身者 学外出身者	1,207,940 1,309,940
	聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科		正:400,000 誤:500,000	1,200,000	300,000		1,900,000

※本学の博士後期課程の学費は予定です。
 ※本学の博士前期（修士）課程修了見込みの方で、博士後期課程に進学する方については入学金不要です。
 ※他大学院の学費は各大学のホームページ掲載情報に基づきます。（令和3年4月時点）
 ※その他、雑費が必要な場合があります。

誤りがあった点について

- ①慶応大学大学院健康マネジメント研究科の「その他」の金額について、カンマの位置が不適切であった。
- ②帝京大学大学院公衆衛生学研究科の入学金（学外出身者）と、聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科の入学金が入っていた。

個別の記載に誤記載はあったが、合計である初年度学費の記載は正しかった。

調查票

静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科
社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置に係るアンケート調査

- ・静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科では、令和 5 年(2023 年)4 月に社会健康医学専攻（博士後期課程）の設置を構想しています。このアンケートでは、設置構想の基礎資料とするため、修士の学位をお持ちか取得見込みの方、またはリーフレットに記載の入学要件を満たしている方に、大学院（博士後期課程）への進学について意向をお伺いします。ご協力をお願いいたします。
- ・このアンケートの結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の□の中へ直接ご記入ください。

◆◆調査回答締め切りのお願◆◆

令和 3 年 11 月 12 日（金）までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

[あなた本人について]

問 1. 年齢はおいくつですか。

【回答欄】

1. 20 歳代
2. 30 歳代
3. 40 歳代
4. 50 歳以上

問 2. どちらにお住まいですか。現住所でお答えください。

1. 静岡県東部地域 2. 静岡県中部地域
3. 静岡県西部地域 4. 東京都
5. 神奈川県 6. 愛知県
7. 三重県 8. 岐阜県
9. その他 ()

問 3. 医療系の資格をお持ちですか。

1. 医師 2. 歯科医師
3. 薬剤師 4. 看護師・助産師・保健師
5. なし
6. その他 ()

問 4. 現在のお勤め先をお答え下さい。

1. 医療機関 2. 開業（医療関連） 3. 一般企業
4. 教育機関 5. 行政機関 6. 学生
7. その他 ()

問 5. 最終学歴をお答え下さい。

1. 6 年制大学卒業（医・歯・薬）
2. 本学在学中
3. 他大学の博士前期（修士）課程修了（在学中含む）
4. 博士後期課程修了（在学中含む）
5. その他 ()

1～4 を選ばれた方は問 6 へお進みください。
5 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

裏面へお進みください



ここからは静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要資料（リーフレット）をご覧ください

[静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）への入学について]

問6. 本学が設置を構想している社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）について、どのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

1. 大いに興味がある
2. 興味がある
3. 関心はない

1、2 を選ばれた方は問7へお進みください。

3 を選ばれた方は問11へお進みください。

問7. 問6で「大いに興味がある」「興味がある」と回答された方におたずねします。本学が設置を構想している社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）で学ぶとしたら、どの分野を学びたいですか。次の中から**最も当てはまるもの**を1つお選びください。

1. 疫学
2. 医療ビッグデータ解析学
3. ゲノム医学

問8. 問6で「大いに興味がある」「興味がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から**第2理由**までお選びください。

1. 現在の研究テーマを継続したいから
2. キャリアアップに有利だから
3. 博士の学位を取得したいから
4. もともと興味のある研究分野だから
5. 新しい視点から研究ができそうだから
6. 社会の必要性に合致する研究内容だから
7. 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
8. 静岡社会健康医学大学院大学に設置される大学院（博士後期課程）だから
9. 静岡県内に設置される大学院（博士後期課程）だから

第1理由

第2理由

問9. あなたは本学が設置を構想している社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）を受験したいとお考えですか。

1. 開設時に受験したい
2. 開設時ではないが、2～5年以内に受験したい
3. 将来、必要性を感じた場合に受験したい
4. 受験しない

1～3 を選ばれた方は問10へお進みください。

4 を選ばれた方は問11へお進みください。

問10. あなたは本学が設置を構想している社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）に合格された場合に入学を希望しますか。

1. 入学を希望する
2. 併願他大学院の結果によっては入学したい

問11. 本学社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置構想について、ご意見・ご要望などがございましたらお聞かせください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

静岡社会健康医学大学院大学 教務課（担当：石井、石原）

〒420-0881 静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号 電話：054-295-5401

計画概要

研究科の概要

■ **開設時期** 令和5年（2023年）4月

■ **修業年限** 3年

■ **入学定員** 2人

■ **取得学位** 博士（社会健康医学）

※英訳名称 Doctor of Philosophy in Public Health (Ph.D)

■ **養成する人材像**

公衆衛生学のコア5領域はもとより、最新の生命科学や情報解析学など関連領域の学識を基本に、社会が必要とするエビデンスの導出とその社会実装を通じて広く人々の健康に貢献できる能力を身につけた研究者を育成します。

設置構想中

研究科の教育内容と特色

【カリキュラムの内容】

基礎科目

社会健康医学の最先端で研究を牽引している様々な研究者を招き、研究の内容や成果、社会実装に対する取り組みなどについて実践的に学ぶ。

特別演習科目

社会健康医学の課題解決に向けて科学的に適切な研究計画を作成し、計画に沿って具体的に研究を進め、成果を取りまとめて発表するための能力を涵養することを目的に、論文抄録、研究成果の中間発表と討議、特別講演などで組成する。

（※本学修士課程を修了せず、かつ他大学院において相当科目を学修していない者には、修士課程の一部の科目履修を推奨）

特別研究科目

社会健康医学における具体的な課題を自ら設定し、当該領域の学術的發展に寄与するとともに実践的な課題解決に向けた方策の提案にも貢献する研究を行う。

【教育の特色】

- 公衆衛生コア5領域を基盤に、ゲノム医学や医療ビッグデータ解析などの新たな学術領域を加えた、幅広い学識の修得
- 静岡県民220万人8年分の健診、医療・介護レセプトデータや静岡県内2万人規模の地域住民コホートなど県・市町と連携した多様な研究フィールドを展開
- 豊富な研究実績を持つ教員による少人数制のサポート
- 社会人学生の通学にも配慮した土曜日の授業科目

修了後の進路

- アカデミアで社会健康医学を考究するとともに、後進の育成に携わる教育研究者
- 国や地方自治体において行政施策の立案に必要なエビデンスの導出や施策の社会実装に資する研究者
- 医療機関において臨床医療に携わりつつもその環境を活かして最先端の社会健康医学に取り組む医師等に代表される臨床研究者
- 企業において臨床・予防医療に資する薬剤、製品、サービスの開発と社会実装に資する研究者

※本紙の内容は構想中のものであり、変更となる場合があります。

主に、次のいずれかに該当する方が対象です。

- 修士の学位や専門職学位を有する者、又は入学前年度末までに取得見込みの者
- 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者
- 本学において、個別の入学資格審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学の年度当初において24歳に達した者（例：6年制大学の卒業者等）

(単位：円)

大学名・研究科名	入学金	授業料	その他	初年度学費	
静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科	県内居住者	141,000	535,800	—	県内居住者 676,800
	県外居住者	366,600			県外居住者 902,400
神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科	県内居住者	282,000	535,800	—	県内居住者 817,800
	県外居住者	564,000			県外居住者 1,099,800
東京大学大学院 医学系研究科		282,000	520,800	—	802,800
慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科		—	660,000	706,00	730,600
帝京大学大学院 公衆衛生学研究科	学内出身者	204,000	795,600	208,340	学内出身者 1,207,940
	学外出身者	400,000			学外出身者 1,309,940
聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科		306,000	1,200,000	300,000	1,900,000

※本学の博士後期課程の学費は予定です。

※本学の博士前期（修士）課程修了見込みの方で、博士後期課程に進学する方については入学金不要です。

※他大学院の学費は各大学のホームページ掲載情報に基づきます。（令和3年4月時点）

※その他、諸会費が必要な場合があります。

公共交通機関をご利用の場合

JR静岡駅よりバスで約25分

- ① 上足洗線「北安東四丁目」（徒歩1分）
- ② 唐瀬線「県立総合病院入口」（徒歩約7分）
- ③ 県立病院高松線「県立総合病院」（徒歩約5分）
- ④ 大浜麻機線「北安東三丁目」（徒歩約5分）

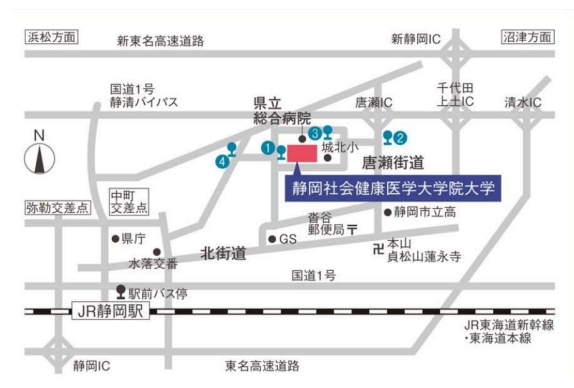
車をご利用の場合

国道1号静岡バイパス「唐瀬IC」から約3分

新東名高速道路「新静岡IC」から約15分

東名高速道路「清水IC」から約20分、「静岡IC」から約25分

※学生は、大学敷地内に駐車可能です。（無料）



【お問い合わせ先】

〒420-0881 静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号

静岡社会健康医学大学院大学 教務課

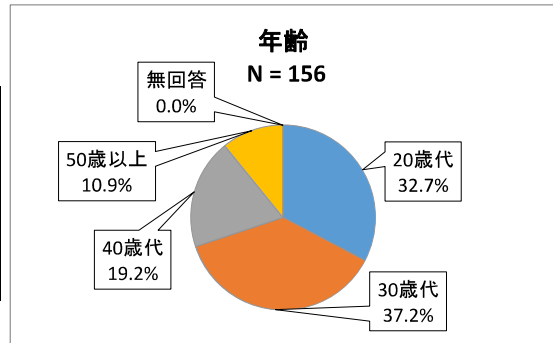
TEL : 054-295-5401 E-mail : kyomu@s-sph.ac.jp HP : https://s-sph.ac.jp

本学ホームページ

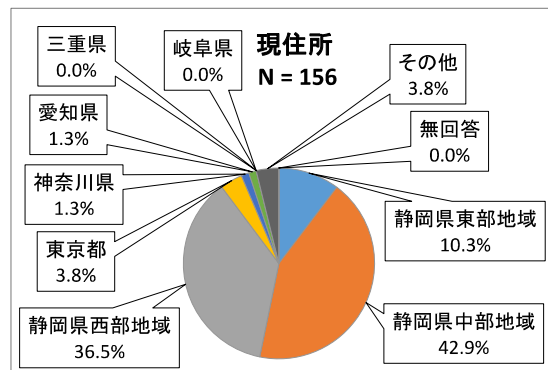


單純集計表

年齢			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	20歳代	51	32.7
2	30歳代	58	37.2
3	40歳代	30	19.2
4	50歳以上	17	10.9
	無回答	0	0.0
	N (% ⁺ -)	156	100

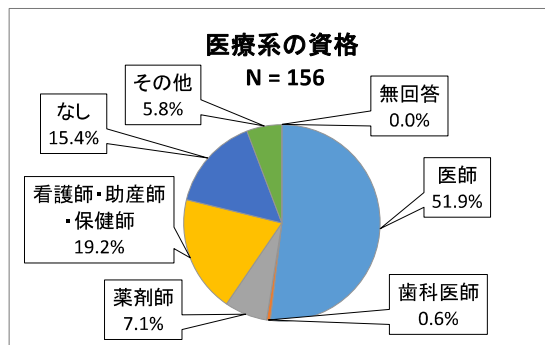


現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県東部地域	16	10.3
2	静岡県中部地域	67	42.9
3	静岡県西部地域	57	36.5
4	東京都	6	3.8
5	神奈川県	2	1.3
6	愛知県	2	1.3
7	三重県	0	0.0
8	岐阜県	0	0.0
9	その他	6	3.8
	無回答	0	0.0
	N (% ⁺ -)	156	100



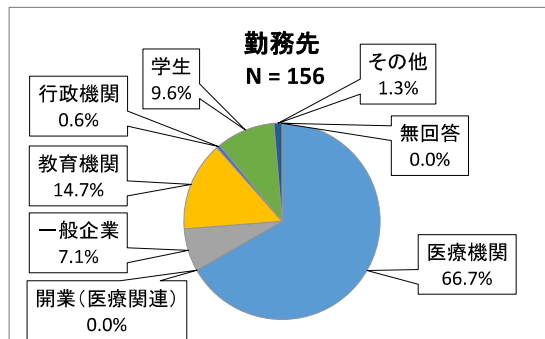
医療系の資格

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医師	81	51.9
2	歯科医師	1	0.6
3	薬剤師	11	7.1
4	看護師・助産師・保健師	30	19.2
5	なし	24	15.4
6	その他	9	5.8
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -ス)	156	100



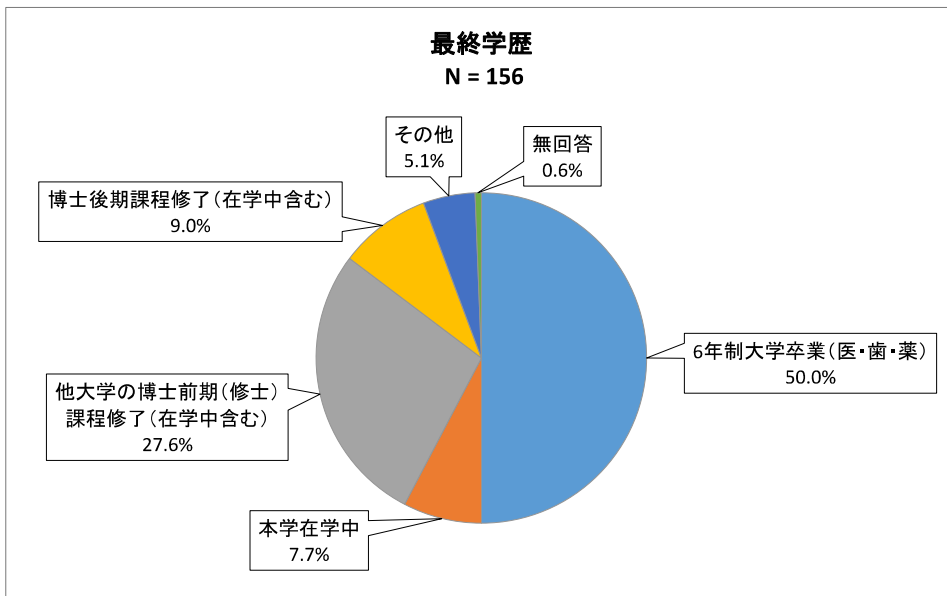
勤務先

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	医療機関	104	66.7
2	開業 (医療関連)	0	0.0
3	一般企業	11	7.1
4	教育機関	23	14.7
5	行政機関	1	0.6
6	学生	15	9.6
7	その他	2	1.3
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -ス)	156	100



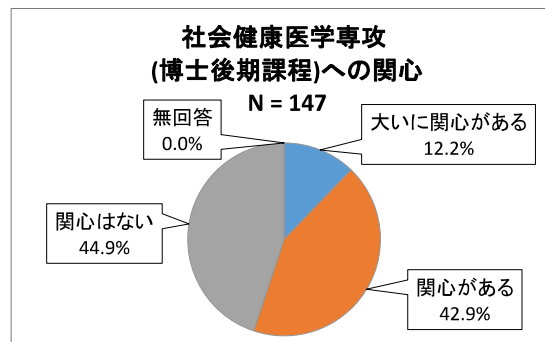
最終学歴

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	6年制大学卒業（医・歯・薬）	78	50.0
2	本学在学中	12	7.7
3	他大学の博士前期（修士）課程修了（在学中含む）	43	27.6
4	博士後期課程修了（在学中含む）	14	9.0
5	その他	8	5.1
	無回答	1	0.6
	N（%ベース）	156	100



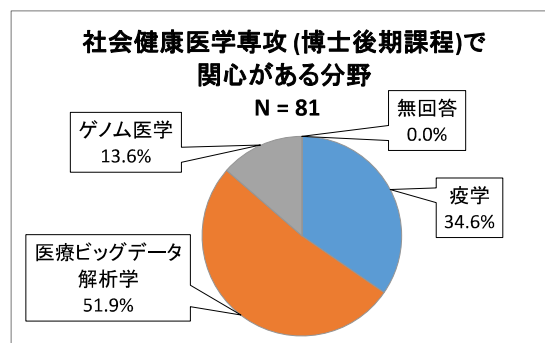
社会健康医学専攻(博士後期課程)への関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに関心がある	18	12.2
2	関心がある	63	42.9
3	関心はない	66	44.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	147	100



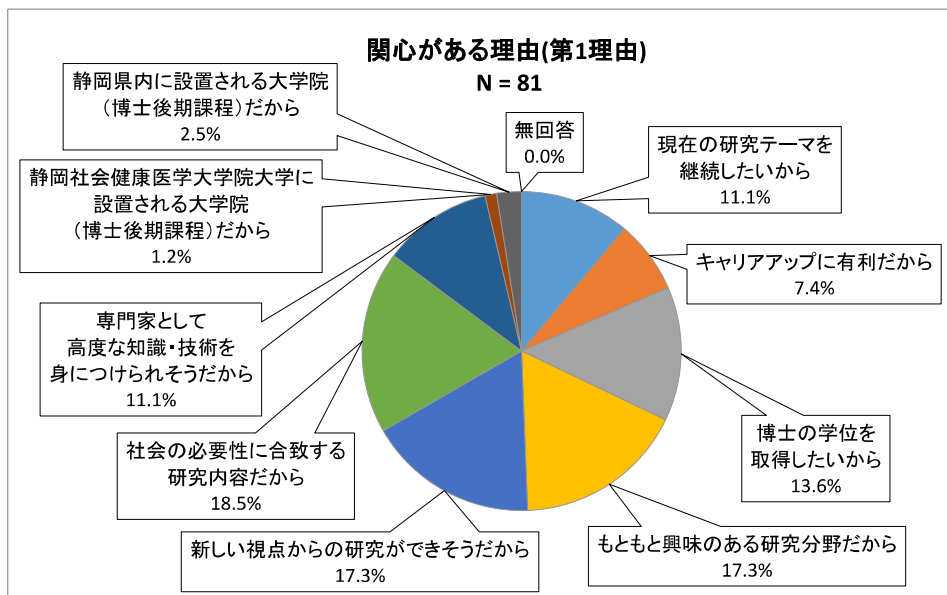
社会健康医学専攻(博士後期課程)で関心がある分野

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	疫学	28	34.6
2	医療ビッグデータ解析学	42	51.9
3	ゲノム医学	11	13.6
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	81	100



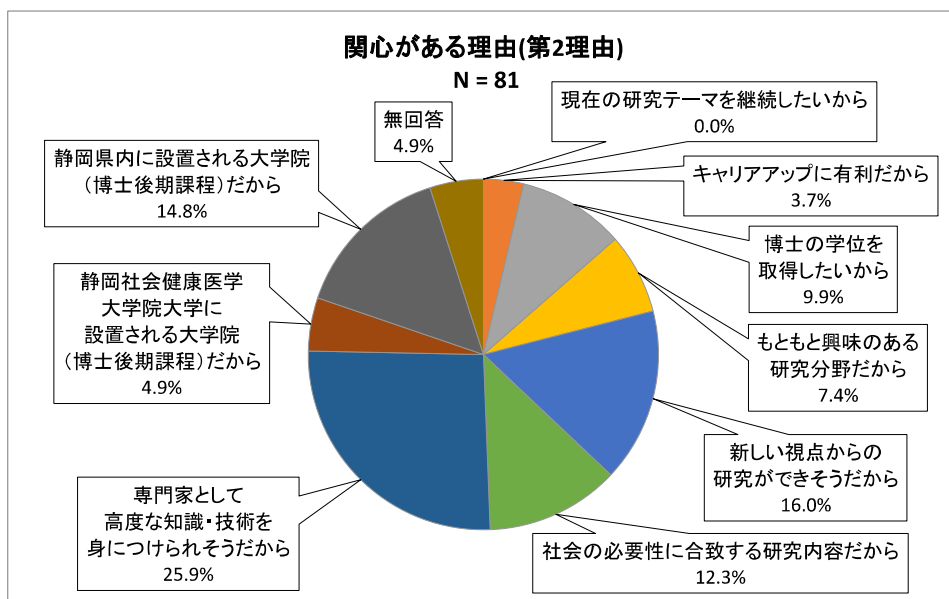
関心がある理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現在の研究テーマを継続したいから	9	11.1
2	キャリアアップに有利だから	6	7.4
3	博士の学位を取得したいから	11	13.6
4	もともと興味のある研究分野だから	14	17.3
5	新しい視点からの研究ができそうだから	14	17.3
6	社会の必要性に合致する研究内容だから	15	18.5
7	専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	9	11.1
8	静岡社会健康医学大学院大学に設置される大学院（博士後期課程）だから	1	1.2
9	静岡県内に設置される大学院（博士後期課程）だから	2	2.5
	無回答	0	0.0
	N（% [^] -s）	81	100



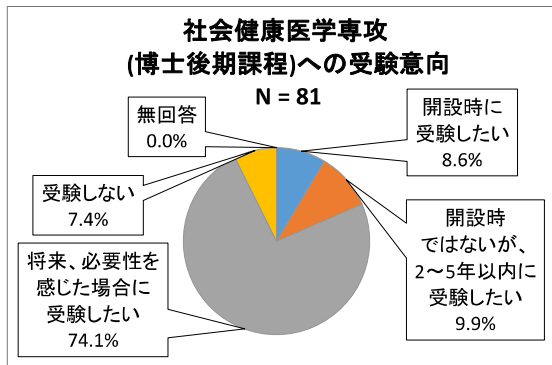
関心がある理由(第2理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現在の研究テーマを継続したいから	0	0.0
2	キャリアアップに有利だから	3	3.7
3	博士の学位を取得したいから	8	9.9
4	もともと興味のある研究分野だから	6	7.4
5	新しい視点からの研究ができそうだから	13	16.0
6	社会の必要性に合致する研究内容だから	10	12.3
7	専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	21	25.9
8	静岡社会健康医学大学院大学に設置される大学院（博士後期課程）だから	4	4.9
9	静岡県内に設置される大学院（博士後期課程）だから	12	14.8
	無回答	4	4.9
	N (% [^] -ス)	81	100



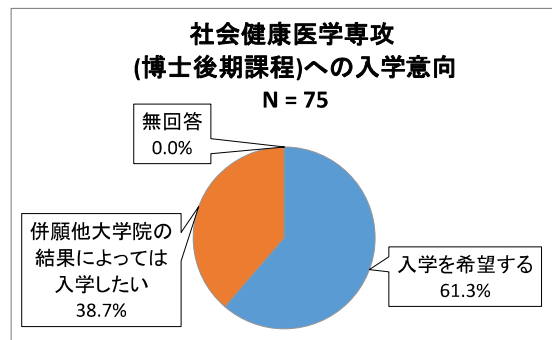
社会健康医学専攻(博士後期課程)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	開設時に受験したい	7	8.6
2	開設時ではないが、 2～5年以内に受験したい	8	9.9
3	将来、必要性を感じた場合に 受験したい	60	74.1
4	受験しない	6	7.4
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	81	100



社会健康医学専攻(博士後期課程)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	46	61.3
2	併願他大学院の結果に よっては入学したい	29	38.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	75	100



近隣都県の公衆衛生大学院の学生納付金

(単位：円)

大学名・研究科名		入学金 (A)	授業料 (B)	その他 (C)	初年度学費 (A+B+C)
静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科	県内の者	141,000	535,800	—	676,800
	県外の者	366,600			902,400
東京大学大学院 医学系研究科		282,000	520,800	—	802,800
神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科	県内居住者	282,000	535,800	—	817,800
	県外居住者	564,000			1,099,800
慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科		—	660,000	70,600	730,600
帝京大学大学院 公衆衛生学研究科	学内出身者	204,000	795,600	208,340	1,207,940
	学外出身者	306,000			1,309,940
聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科		400,000	1,200,000	300,000	1,900,000
【参考】 静岡県立大学大学院	県内の者	141,000	535,800	—	676,800
	県外の者	366,600			902,400

*2021年度時点の博士後期課程の初年度の学生納付金

提言

わが国の公衆衛生向上に向けた公衆衛生大学院
の活用と機能強化



平成23年（2011年）9月27日

日本学術会議

基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同

パブリックヘルス科学分科会

1 はじめに

近代の公衆衛生（Public Health）は、産業革命期の英国で労働者の健康を守るために誕生し、その後、欧米を中心に発展してきた実践及び学術分野である。わが国では、明治時代、度々のコレラ流行に対応すべく、1883年官民挙げた組織である大日本私立衛生会（現在の財団法人日本公衆衛生協会の前身）が設立され、その頃より日本の公衆衛生活動も本格化した[1]。第二次世界大戦後、国民の健康を守るという公衆衛生の使命は、日本国憲法において明文化され、多くの制度・行政施策として具現化され、環境衛生、感染症対策、労働衛生、母子保健、精神保健、地域保健などの分野で成果を上げてきた。また、技術的な側面として、環境測定や毒性及びリスク評価に基づく環境改善、健康診断の精度向上、あるいは健康教育や保健指導、訪問指導の普及なども特筆される。これらの活動の成果として、結核や胃腸炎、脳血管疾患など、戦後しばらく死因の上位を占めた疾病による死亡は大きく減少し、重篤な公害病や職業性疾患の発生率も低下し、わが国は世界有数の長寿国となった[2]。

しかしながら、近年、わが国は新たな健康・医療問題及び環境リスクや食の安全の問題などに直面している。急速に進行する少子高齢化、突発的な新興・再興感染症やバイオテロの発生、労働現場における過労死・自殺等の増加、医療事故や医療経営環境の悪化、あるいは今般の原子力発電所事故以来、引き続き放射能汚染や、グローバル化の中で進む環境汚染や輸入食品などの安全に関わる問題などである。このような様々な健康・医療問題への対応は、わが国の喫緊の課題であり、人間集団の健康を対象にした調査・分析の手法を身につけ、保健医療に関わる社会制度や社会自然環境が人々の健康や安全に及ぼす影響を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れた、より高度な公衆衛生の専門家養成が求められている。

従来、わが国の公衆衛生に係わる専門教育は、主として学部レベルにおいて、医師、歯科医師、薬剤師、保健師等の資格教育の一環として行われてきた。しかし、保健医療の国内問題だけを見ても時間数や現場教育の機会は限られており、近年の複雑化する健康・医療問題に対応するためには不十分なものとなりつつある。加えて人々の健康や安全と密接な関係を有するグローバルな課題に対応するには国際的な取り組みが不可欠であるが、それらを教授する人材を従来の学部教育の衛生学・公衆衛生学の枠組みの中で充足することは教員定数の問題からも容易ではない。他方、大学院教育としては、保健学や医科学などの修士課程・後期博士課程や医学博士課程があるが、いずれの課程も学術理論及び応用研究に関わる教育研究活動を主に行っており、これらは必ずしも研究成果の社会還元や公衆衛生専門家養成のための教育に直結するものではなかった。

歴史的及び国際的に見ると、公衆衛生学は、社会に直接関わる研究分野として発展してきており、研究も学術性だけでなく実際的な成果が期待されてきた。このようにプラグマティックな要素の強い分野において、指導的役割を果たす専門家を養成して行くためには、学術理論及び応用研究だけでなく、実務の現場に根ざした教育を行える大学院レベルの課程が新たに必要である。また、そのような大学院教育を充実させることを通して、複雑かつ多様な健康・医療問題や環境が人々の健康や安全に与える影響などを俯瞰的に捉え、わ

新時代の大学院教育

－ 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて －

答申

平成17年9月5日

中央教育審議会

研究者に求められる批判力，論理性，表現力の涵養が重要である。また，実践的な研究テーマと基礎的な研究テーマの両方が教育できるような体系的な教育プログラムが必要である。

- 高度専門職業人養成プログラムにおいては，看護や医療技術の現場において，将来指導的立場で活躍できる人材を養成する観点から，例えば，患者の主体性を尊重したマネジメント論やコミュニケーション論，看護倫理学，実践現場での教育方法論，コンサルテーション論，装具等の作成技術論等のコースワークや実践体験を含んだプログラムを整備し，当該専門領域に係る学際的な知識，実践能力，教育能力を育成する体系的な教育プログラムでなければならない。

また，専門領域での認定資格等に係わる教育を大学院の教育課程の中に効果的に取り込む工夫も求められる。

- 博士課程（後期）においては，研究者の育成を主たる目的とすることから，研究能力の育成に必要な理論構築や技術開発に関する方法論のコースワークを含んだ教育プログラムとすることが適当である。

(v) 公衆衛生分野の大学院について

- 医療疫学，医療経済，予防医療，国際保健，病院管理等の幅広い分野を含む公衆衛生分野の大学院については，高齢化等の進展に対応して，また，医学，歯学，薬学等のヒトを対象とした臨床研究・疫学研究の推進を図るためにも，公衆衛生分野における高度専門職業人の育成が課題となっている。

- このため，欧米の状況も踏まえ，2年制の専門職大学院として，大学院の整備を進めていくことが必要であり，また，それに必要な教員の養成やカリキュラムの開発，修了者の社会での活躍の場の拡大など，関連する施策を進めていくことが求められる。また，その場合の教育内容については，各専門領域に共通するコア科目の修得と，各専門領域における専門科目の修得とを組み合わせるような工夫が必要である。

- 博士課程（後期）においては，当該分野における研究者養成とこの分野の教育者の育成を主たる目的とし，その目的にふさわしい教育内容とすることが適当である。

(2) 修得単位数に関する大学院設置基準の改正について

- 大学院において修得すべき単位数及び単位の数え方については，大学院設置基準の



2035年、
日本は
健康先進国へ。

数の疾患を有する患者を総合的に診ること、予防、公衆衛生、コミュニケーション、マネジメントに関する能力を有する医師の養成や、国家試験のあり方、医学部教育の見直し、チーム医療の更なる拡大、病院の専門医から地域のかかりつけ医に転職時の再教育システムなどにより、医師一人当たりの生産性を高めることが考えられる。この際、MOOC⁴¹など ICT の活用を含め医師をはじめとする医療従事者の教育を効率的・効果的に進め、医療従事者が働きやすい環境づくりや女性医師の活躍モデルの構築などを図る。

公衆衛生大学院の増設等、特に地域での医療政策を主導できる人材の育成とキャリアアップを図る仕組みを創設する。また、医療機関の経営については、医学的な臨床やデータサイエンスのみならず、リーダーシップなどについても高めていくことが求められており、経営学や公衆衛生等の学際的な教育課程を今後充実させていかなければならない。

それぞれの地域においては、医師の高齢化や地域偏在などに伴い、不足する診療科及び診療内容について精査する必要がある。医療計画の策定責任者である都道府県は、その精査する過程で、総合診療を含め、不足している診療科別の地域医師確保計画を策定し、対策を講じるべきである。具体的には、過当競争の診療科から不足する診療科に転科を促すための支援策を策定する。例えば、奨学金や強化型研修プログラム等により、医師の配置、診療科への誘導等をできるようにすることが考えられる。臨床研修や専門研修に当たっても、偏在を是正する観点を組み込んだ方策を講じるべきである。

地域において病院の機能分化等を行っていく中で、専門医と総合的な診療を行うかかりつけ医の連携強化や有機的なネットワークの構築を図っていくことが必要である。こうした機能分化は、自治体の枠を超えて自治体間での機能分化することも積極的に推進する必要がある。

また、へき地の小規模医療機関においては、最先端の医療技術や医療の知識に触れることが難しいため、へき地の小規模医療機関においても、常に臨床と研究の両方の側面から、リサーチマインドをもって研鑽し続けることができる体制を構築する必要がある。このため、地域基盤型リサーチネットワークの構築や治験ネットワークの拡大など、地域の医師が最先端の教育、研究、臨床にアプローチできる環境を

⁴¹ Massive open online courses (オンラインで公開された無料の講座を受講し、修了条件を満たすと修了証が取得できるサービス)

(参考) ビジョン達成に向けた時間軸

	～2020	～2035
リーン・ヘルスケア ～保健医療の価値を高める～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療技術評価の制度化・施行 ・ 現場主導による医療の質の向上支援（過剰医療や医療事故の防止など） ・ 「ゲートオープナー」としてのかかりつけ医の育成・全地域への配置 ・ 地域と病院が患者側に最善の選択肢を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療提供者の技術、医療用品の効能など（医療技術）を患者の価値を考慮して評価し、診療報酬点数に反映 ・ 医療機関のパフォーマンスの見える化とベンチマーキングによる治療成績の改善 ・ 地域のデータとニーズに応じて保健・医療・介護サービスを確保
ライフ・デザイン ～主体的選択を社会で支える～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「たばこフリー」オリンピックの実現に向けた環境整備の促進（例：子ども防煙教育、たばこ税増税、たばこの広告・パッケージ規制、喫煙者に対する禁煙指導・治療） ・ 効果が実証されている予防の積極的推進、特に、重症化予防の徹底による医療費削減 ・ 「健康への投資」による生活の質と社会的な生産性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2035年までに「たばこフリー」社会を実現 ・ 電子健康記録に介護サービス情報を含めた個人レベルでのポータブルな情報基盤の普及・活用を支援 ・ 住民が健康・生活上の課題をワンストップで相談できる総合サービスの充実 ・ 健康の社会的決定要因を考慮したコミュニティやまちづくり
グローバル・ヘルス・リーダー ～日本が世界の保健医療を牽引する～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康危機管理体制の確立（健康危機管理・疾病対策センターの創設） ・ オリンピック開催までに早急に国際的な医療の提供体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の封じ込めや災害時の支援など健康危機管理で国際的に貢献する機能を大幅に強化し、世界の「健康危機管理官」としての地位を確立

		<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル・ヘルスを担う人材の育成体制の整備と官民一体となって人材をプールする仕組みの創設 ・ アジアなどでのユニバーサル・ヘルス・カバレッジや医薬品等承認制度などのシステムの構築支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府、自衛隊、NPO や市民社会などと連携した保健安全保障体制の確立 ・ 地域包括ケア等の医療・介護システムの輸出 ・ 国際機関などによるグローバル・ヘルス・ガバナンスの構築への貢献
2035 年のビジョンを達成するためのインフラ	イノベーション環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治験や臨床試験のプラットフォーム整備 ・ 学際的かつ実践的な取組みを推進させるための研究・教育環境の整備や人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんや認知症などの研究推進のための多様な研究財源の確保 ・ 国内外のイノベーション人材の我が国への集積
	情報基盤の整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルスケアデータネットワークの確立・活用（公的データなどの医療等 ID による連結） ・ 検診・治療データの蓄積・分析による予防・健康・疾病管理の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT による遠隔診断・治療・手術などの基盤確立 ・ 予防、診断、治療、疾病管理、介護、終末期（人生の最終段階）において、データを活用した政策評価プロセスが確立
	安定した保健医療財源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療費の伸びが予測を上回る場合の中期調整システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的保険を補完する財政支援の仕組みの確立 ・ 都道府県ごとの地域差に対応するための権限移譲等
	次世代型の保健医療人材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予防、公衆衛生、コミュニケーション、マネジメント能力を有する医師の養成 ・ グローカル臨床研修制度を導入 ・ <u>公衆衛生大学院の増設等による医療政策人材の育成</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療や福祉の資格の共通基盤（連携の促進や養成課程等）を整備 ・ 医師の偏在等が続く地域における保険医の配置・定数の設定等

静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科
社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の修了者に対する
採用意向に関するアンケート調査報告

令和3年12月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の
修了者に対する採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和 5 年 4 月に予定している静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の開設に向けて、修了者の就職が見込まれる静岡県及び近隣都県（東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県）に所在する団体等の代表者・採用担当者等にアンケートを実施し、静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）（以下、社会健康医学専攻（博士後期課程）とする。）の修了者に対する団体等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の就職が見込まれる病院、大学、企業等 116 団体等の代表者・採用担当者等にアンケートを実施。

(3) 調査方法

社会健康医学専攻（博士後期課程）の修了者の就職が見込まれる病院、大学、企業等 116 団体等の代表者・採用担当者等にアンケート用紙及び社会健康医学専攻（博士後期課程）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答用紙は病院、大学、企業等から一般財団法人日本開発構想研究所へ直接郵送。一部の回答者については、静岡社会健康医学大学院に FAX、メール等により回答を送付し、大学がとりまとめ、日本開発構想研究所に提供した。

その結果、29 件の有効回答を得た。集計結果より、社会健康医学専攻（博士後期課程）の修了者に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和 3 年 10 月～令和 3 年 12 月

(5) 有効回収率等

調査対象数：116 件

有効回答数：29 件

有効回収率：25.0%（有効回答 29 件 ÷ 調査対象 116 件）

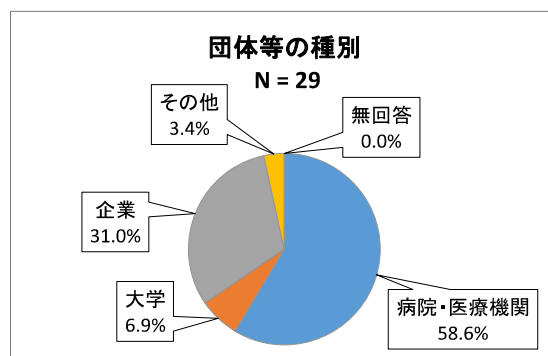
※静岡社会健康医学大学院大学にて設置を構想している社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。また、大学名 研究科名称についても省略し、単に社会健康医学専攻（博士後期課程）として表記した。

2. 調査結果

(1) 団体等の種別について

団体等の種別について調査した結果、回答のあった団体等 29 件のうち、「病院・医療機関」が 17 件 (58.6%) と最も多く、次いで「企業」9 件 (31.0%)、「大学」2 件 (6.9%)、「その他」1 件 (3.4%) の順になっている。

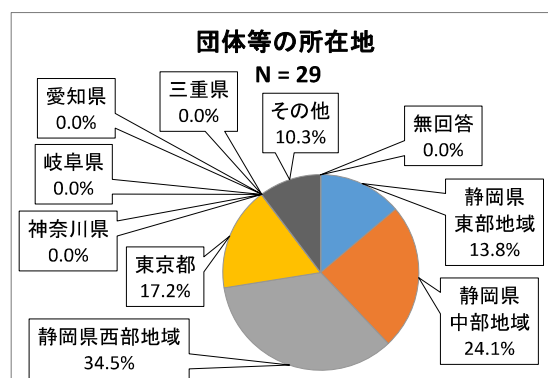
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院・医療機関	17	58.6
2	大学	2	6.9
3	企業	9	31.0
4	その他	1	3.4
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	29	100



(2) 団体等の所在地について

団体等の所在地について調査した結果、回答のあった団体等 29 件のうち、「静岡県西部地区」が 10 件 (34.5%) と最も多く、次いで「静岡県中部地域」7 件 (24.1%)、「東京都」5 件 (17.2%)、「静岡県東部地域」4 件 (13.8%)、「その他」3 件 (10.3%) の順になっている。

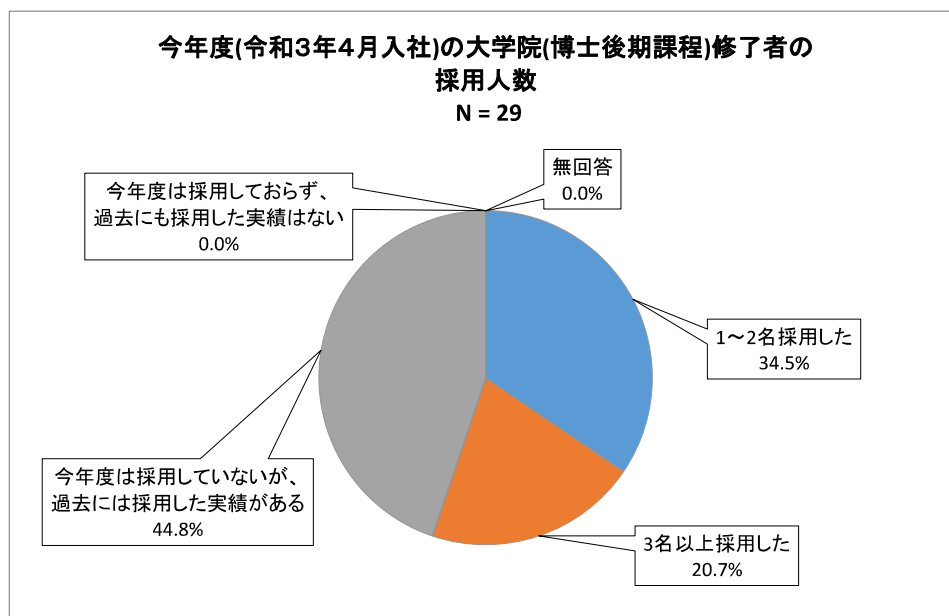
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県東部地域	4	13.8
2	静岡県中部地域	7	24.1
3	静岡県西部地域	10	34.5
4	東京都	5	17.2
5	神奈川県	0	0.0
6	岐阜県	0	0.0
7	愛知県	0	0.0
8	三重県	0	0.0
9	その他	3	10.3
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	29	100



(3) 今年度（令和3年4月入社）の大学院（博士後期課程）修了者の採用人数について
 今年度（令和3年4月入社）の大学院（博士後期課程）修了者の採用人数について調査した結果、回答のあった団体等 29 件のうち、「今年度は採用していないが、過去には採用した実績がある」が 13 件（44.8%）と最も多く、次いで「1～2 名採用した」10 件（34.5%）、「3 名以上採用した」6 件（20.7%）の順になっている。

今年度(令和3年4月入社)の大学院(博士後期課程)修了者の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～2名採用した	10	34.5
2	3名以上採用した	6	20.7
3	今年度は採用していないが、過去には採用した実績がある	13	44.8
4	今年度は採用しておらず、過去にも採用した実績はない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	29	100



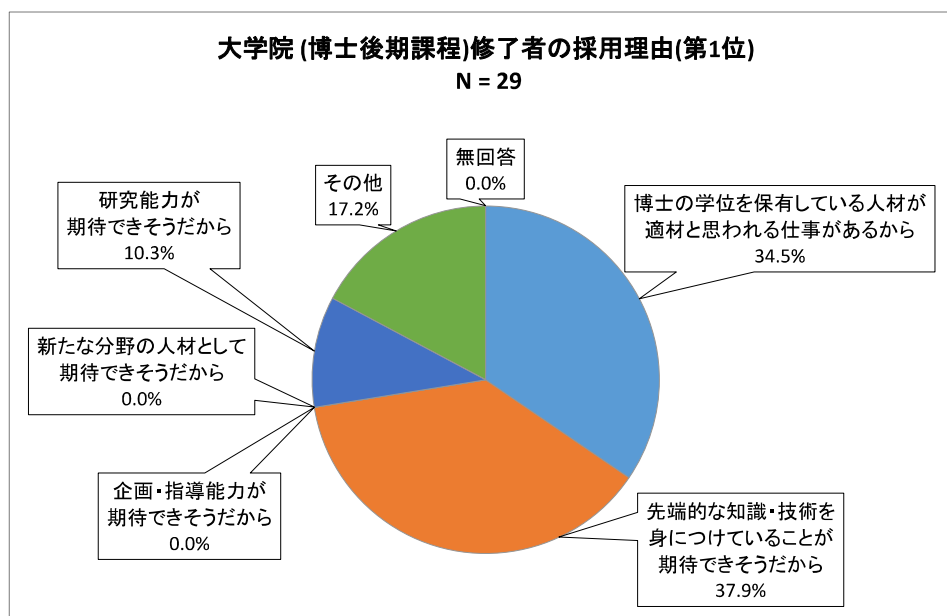
(4) 大学院（博士後期課程）修了者の採用理由について

4-1 大学院（博士後期課程）修了者の採用理由（第1位）

大学院（博士後期課程）修了者を採用した理由について調査した結果、回答のあった団体等 29 件のうち、「先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから」が 11 件（37.9%）と最も多く、次いで「博士の学位を保有している人材が適材と思われる仕事があるから」10 件（34.5%）、「その他」5 件（17.2%）、「研究能力が期待できそうだから」3 件（10.3%）の順になっている。

大学院（博士後期課程）修了者の採用理由（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	博士の学位を保有している人材が適材と思われる仕事があるから	10	34.5
2	先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから	11	37.9
3	企画・指導能力が期待できそうだから	0	0.0
4	新たな分野の人材として期待できそうだから	0	0.0
5	研究能力が期待できそうだから	3	10.3
6	その他	5	17.2
	無回答	0	0.0
	N（%ベース）	29	100

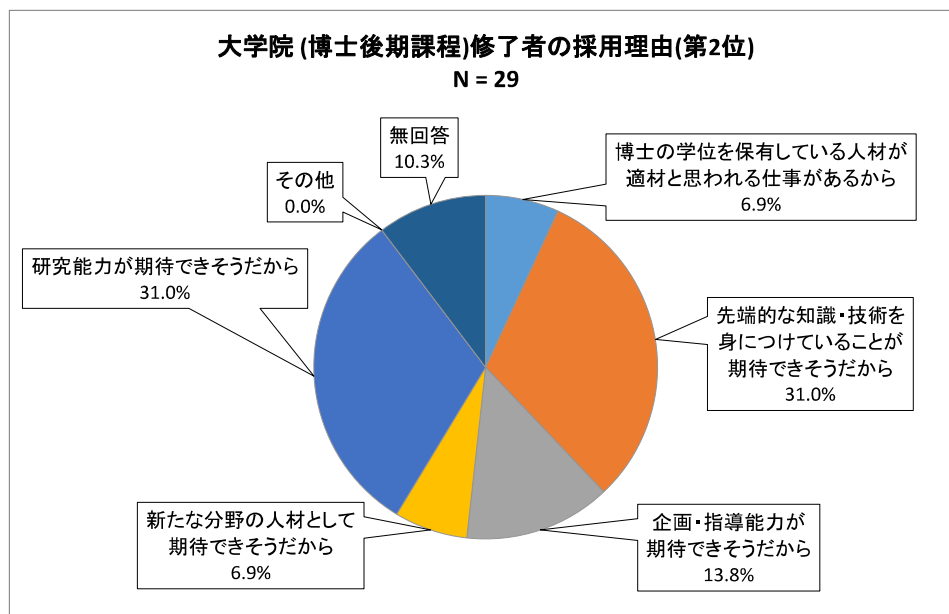


4-2 大学院（博士後期課程）修了者の採用理由（第2位）

大学院（博士後期課程）修了者を採用した理由について調査した結果、回答のあった団体等 29 件のうち、「先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから」及び「研究能力が期待できそうだから」がそれぞれ 9 件（31.0%）と最も多く、次いで「企画・指導能力が期待できそうだから」4 件（13.8%）、「博士の学位を保有している人材が適材と思われる仕事があるから」2 件（6.9%）、「新たな分野の人材として期待できそうだから」2 件（6.9%）の順になっている。 ※「無回答」3 件（10.3%）

大学院（博士後期課程）修了者の採用理由（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	博士の学位を保有している人材が適材と思われる仕事があるから	2	6.9
2	先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから	9	31.0
3	企画・指導能力が期待できそうだから	4	13.8
4	新たな分野の人材として期待できそうだから	2	6.9
5	研究能力が期待できそうだから	9	31.0
6	その他	0	0.0
	無回答	3	10.3
	N（%ベース）	29	100



(5) 大学院（博士後期課程）修了者の今後の採用方針について

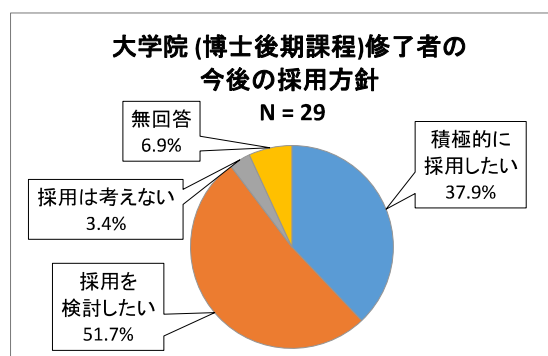
大学院（博士後期課程）修了者の今後の採用方針について調査した結果、回答のあった団体等 29 件のうち、「採用を検討したい」が 15 件（51.7%）と最も多く、次いで「積極的に採用したい」11 件（37.9%）、「採用は考えない」1 件（3.4%）の順になっている。

※「無回答」2 件（6.9%）

なお、「積極的に採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合計すると、26 件（89.7%）となっている。

大学院（博士後期課程）修了者の今後の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用したい	11	37.9
2	採用を検討したい	15	51.7
3	採用は考えない	1	3.4
	無回答	2	6.9
N	(%ベース)	29	100



(6) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について

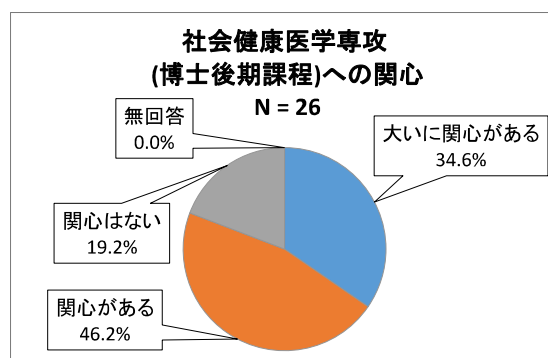
「(5) 大学院（博士後期課程）修了者の今後の採用方針について」で肯定的な回答をした団体等 26 件に、社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について調査した。

その結果、「関心がある」が 12 件（46.2%）と最も多く、次いで「大いに関心がある」9 件（34.6%）、「関心はない」5 件（19.2%）の順になっている。

なお、「大いに関心がある」、「関心がある」の合計 21 件（80.8%）が社会健康医学専攻（博士後期課程）に関心を示している。

社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに関心がある	9	34.6
2	関心がある	12	46.2
3	関心はない	5	19.2
	無回答	0	0.0
N	(%ベース)	26	100



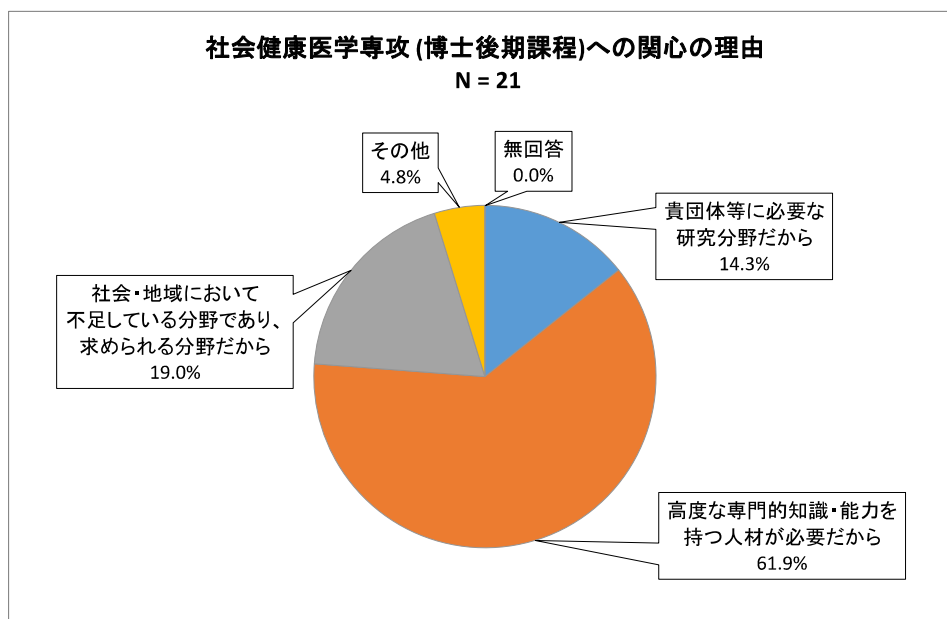
(7) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心の理由について

「(6) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心について」にて社会健康医学専攻（博士後期課程）に関心を示した 21 件に、関心の理由について調査した。

その結果、「高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから」が 13 件（61.9%）と最も多く、次いで「社会・地域において不足している分野であり、求められる分野だから」4 件（19.0%）、「貴団体等に必要な研究分野だから」3 件（14.3%）、「その他」1 件（4.8%）の順になっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）への関心の理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	貴団体等に必要な研究分野だから	3	14.3
2	高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから	13	61.9
3	社会・地域において不足している分野であり、求められる分野だから	4	19.0
4	その他	1	4.8
	無回答	0	0.0
	N（%←）	21	100



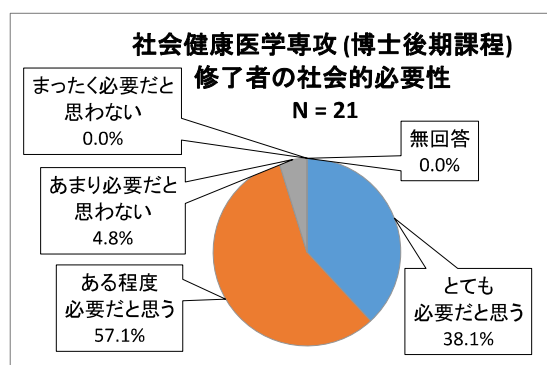
(8) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の社会的必要性について

社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の社会的必要性について調査した結果、「ある程度必要だと思う」が 12 件（57.1%）と最も多く、次いで「とても必要だと思う」8 件（38.1%）、「あまり必要だと思わない」1 件（4.8%）の順になっている。

なお、「とても必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」の肯定的な回答を合計すると、20 件（95.2%）となっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	とても必要だと思う	8	38.1
2	ある程度必要だと思う	12	57.1
3	あまり必要だと思わない	1	4.8
4	まったく必要だと思わない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	21	100



(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用意向について

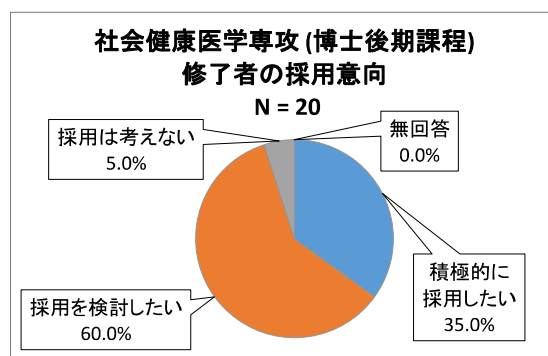
「(8) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の社会的必要性について」で肯定的な回答をした 20 件に、社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用意向について調査した。

その結果、「採用を検討したい」が 12 件（60.0%）と最も多く、次いで「積極的に採用したい」7 件（35.0%）、「採用は考えない」1 件（5.0%）の順になっている。

なお、「積極的に採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合計すると 19 件（95.0%）となっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用したい	7	35.0
2	採用を検討したい	12	60.0
3	採用は考えない	1	5.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	20	100



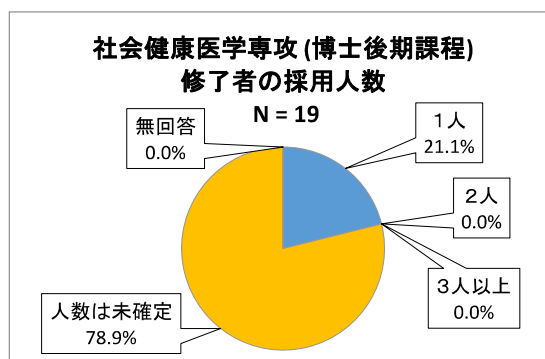
(10) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用人数について

「(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用意向について」にて肯定的な採用意向を示した 19 件に、社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の将来的な採用人数について調査した。

その結果、「人数は未確定」が 15 件（78.9%）と最も多く、次いで「1 人」4 件（21.1%）の順になっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1 人	4	21.1
2	2 人	0	0.0
3	3 人以上	0	0.0
4	人数は未確定	15	78.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	19	100



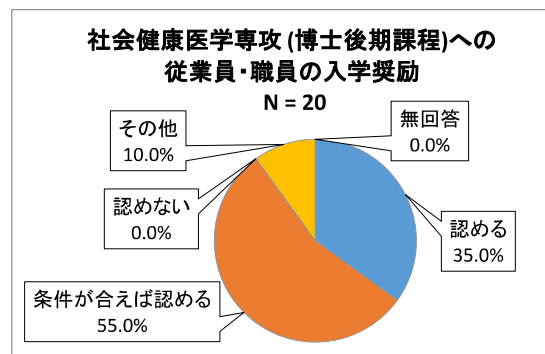
(11) 社会健康医学専攻（博士後期課程）への従業員・職員の入学奨励について

「(8) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の社会的必要性について」で肯定的な回答をした 20 件に、従業員・職員側から社会健康医学専攻（博士後期課程）で学びたい（学費は職員の自己負担として）と申し入れがあった場合の入学奨励について調査した。

その結果、「条件が合えば認める」が 11 件（55.0%）と最も多く、次いで「認める」7 件（35.0%）、「その他」2 件（10.0%）の順になっている。

社会健康医学専攻（博士後期課程）への
従業員・職員の入学奨励

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	認める	7	35.0
2	条件が合えば認める	11	55.0
3	認めない	0	0.0
4	その他	2	10.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	20	100

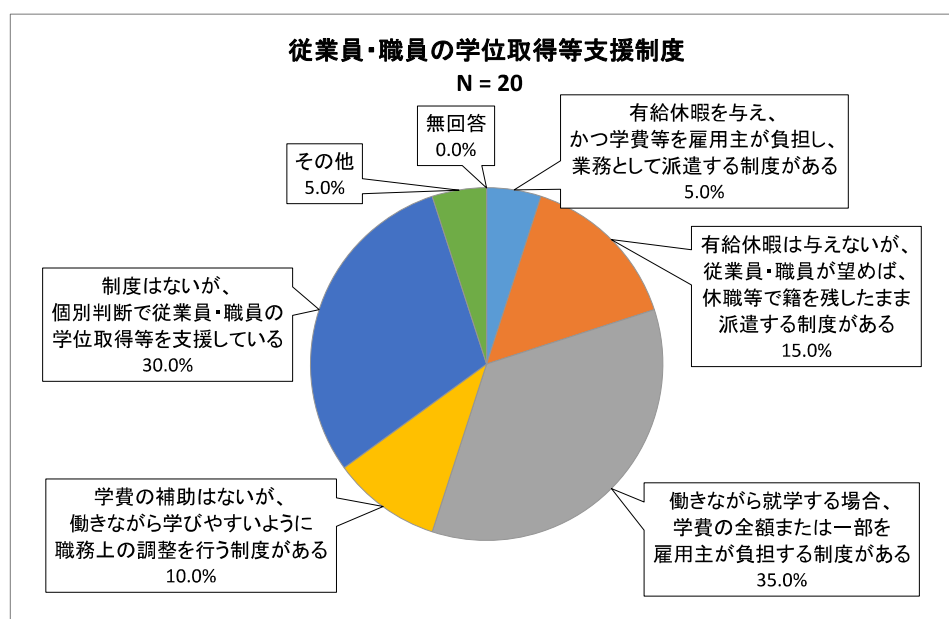


(12) 従業員・職員の学位取得等支援制度について

「(8) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の社会的必要性について」で肯定的な回答をした 20 件に、従業員・職員の学位取得等について支援を行う制度の有無について調査した。

その結果、「働きながら就学する場合、学費の全額または一部を雇用主が負担する制度がある」が 7 件（35.0%）と最も多く、次いで「制度はないが、個別判断で従業員・職員の学位取得等を支援している」6 件（30.0%）、「有給休暇は与えないが、従業員・職員が望めば、休職等で籍を残したまま派遣する制度がある」3 件（15.0%）、「学費の補助はないが、働きながら学びやすいように職務上の調整を行う制度がある」2 件（10.0%）、「有給休暇を与え、かつ学費等を雇用主が負担し、業務として派遣する制度がある」1 件（5.0%）、「その他」1 件（5.0%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	有給休暇を与え、かつ学費等を雇用主が負担し、業務として派遣する制度がある	1	5.0
2	有給休暇は与えないが、従業員・職員が望めば、休職等で籍を残したまま派遣する制度がある	3	15.0
3	働きながら就学する場合、学費の全額または一部を雇用主が負担する制度がある	7	35.0
4	学費の補助はないが、働きながら学びやすいように職務上の調整を行う制度がある	2	10.0
5	制度はないが、個別判断で従業員・職員の学位取得等を支援している	6	30.0
6	その他	1	5.0
	無回答	0	0.0
	N（%ベース）	20	100



3. 調査結果のまとめ

社会健康医学専攻（博士後期課程）の修了者に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(10) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「3人以上」は最低数である「3人」として計算した。

「人数は未確定」とは、「(9) 社会健康医学専攻（博士後期課程）修了者の採用意向について」にて、「積極的に採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下表より、社会健康医学専攻（博士後期課程）の修了者に対する採用意向人数は「積極的に採用したい」のみで合計した場合、7人分となる。入学定員は2人であるため、3.5倍の採用意向を確保できている。

また、「積極的に採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は19人分となり、入学定員2人に対して、9.5倍となる。

社会健康医学専攻（博士後期課程）

回答数(件) 人数(人)	「積極的に採用したい」のみ		合計	
1人(A)	3	(a)	(A) × (a)	3
2人(B)	-	(b)	(B) × (b)	-
3人以上(C)	-	(c)	(C) × (c)	-
人数は未確定(D)	4	(d)	(D) × (d)	4
無回答	-			

合計採用意向 7人

回答数(件) 人数(人)	「積極的に採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計	
1人(A)	4	(a)	(A) × (a)	4
2人(B)	-	(b)	(B) × (b)	-
3人以上(C)	-	(c)	(C) × (c)	-
人数は未確定(D)	15	(d)	(D) × (d)	15
無回答	-			

合計採用意向 19人

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられること、また、社会健康医学専攻（博士後期課程）は主に社会人を対象とした大学院大学であり、入学生のほとんどが在職のまま入学し、修了後は所属団体等へ戻ることを想定していることから、社会健康医学専攻（博士後期課程）の修了者の進路は十分に確保できるものとする。

4. 補足

アンケート調査時に示した「静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要（リーフレット）」について、内容の一部に不備があった。

(単位:円)

初年度学費（他の大学院を含む）	大学名・研究科名	入学金			初年度学費		
		県内居住者	授業料	その他	県内居住者	県外居住者	
	静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科	県内居住者	141,000	535,800	—	県内居住者	676,800
		県外居住者	366,600			県外居住者	902,400
	神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科	県内居住者	282,000	535,800	—	県内居住者	817,800
		県外居住者	564,000			県外居住者	1,099,800
	東京大学大学院 医学系研究科		282,000	520,800	—		802,800
	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科		—	660,000	正:70,600 誤:706,000	①	730,600
	帝京大学大学院 公衆衛生学研究科	学内出身者	204,000	795,600	208,340	学内出身者	1,207,940
		学外出身者	正:306,000 誤:406,000			②	学外出身者
	聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科		正:400,000 誤:500,000	1,200,000	300,000	②	1,900,000

※本学の博士後期課程の学費は予定です。
 ※本学の博士前期（修士）課程は定員見込みの方で、博士後期課程に進学する方については入学金不要です。
 ※他大学院の学費は各大学のホームページ掲載情報に基づきます。（令和3年4月時点）
 ※その他、諸会費が必要な場合があります。

誤りがあった点について

- ①慶応大学大学院健康マネジメント研究科の「その他」の金額について、カンマの位置が不適切であった。
- ②帝京大学大学院公衆衛生学研究科の入学金（学外出身者）と、聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科の入学金が入っていた。

個別の記載に誤記載はあったが、合計である初年度学費の記載は正しかった。

調查票

静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科
社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置に係るアンケート調査

・静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科では、令和5年(2023年)4月に社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置を構想しています。このアンケートでは、設置構想の基礎資料とするため、貴社/貴施設の採用状況・意向等についてお伺いします。ご協力をお願いいたします。
・このアンケートの結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用いたしません。
・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接ご記入ください。

◆◆調査回答締め切りのお願◆◆

令和3年11月12日（金）までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

【貴団体・貴施設・貴社（以下、貴団体等）についてお聞きます】

【回答欄】

問1. 貴団体等について、次の中から最も該当するものをお答えください。

- 1. 病院・医療機関 2. 大学
3. 企業 4. その他 ()

問2. 所在地をお答えください。

- 1. 静岡県東部地域 2. 静岡県中部地域
3. 静岡県西部地域 4. 東京都
5. 神奈川県 6. 岐阜県
7. 愛知県 8. 三重県
9. その他 ()

問3. 今年度（令和3年4月入社）、大学院（博士後期課程）を修了した人材を採用されましたか。

- 1. 1～2名採用した
2. 3名以上採用した
3. 今年度は採用していないが、過去には採用した実績がある
4. 今年度は採用しておらず、過去にも採用した実績はない

1～3 を選ばれた方は 問4 へお進みください。
4 を選ばれた方は 問5 へお進みください。

問4. 大学院（博士後期課程）を修了した人材を採用した理由について、次の中から該当するものを順に2つお答えください。

- 1. 博士の学位を保有している人材が適材と思われる仕事があるから
2. 先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから
3. 企画・指導能力が期待できそうだから
4. 新たな分野の人材として期待できそうだから
5. 研究能力が期待できそうだから
6. その他 ()

第1位
第2位

問5. 今後、大学院（博士後期課程）修了者の採用を検討しますか。

- 1. 積極的に採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1, 2 を選ばれた方は 問6 へお進みください。
3 を選ばれた方は 問13 へお進みください。

ここからは静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要資料をご覧ください

【静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）について】

問6. 本学の社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）についてどのようにお考えですか。

- 1. 大いに関心がある
2. 関心がある
3. 関心はない

1, 2 を選ばれた方は 問7 へお進みください。
3 を選ばれた方は 問13 へお進みください。

裏面へお進みください



問7. 問6で「大いに興味がある」「興味がある」と回答された理由をお答えください。

1. 貴団体等に必要の研究分野だから
2. 高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから
3. 社会・地域において不足している分野であり、求められる分野だから
4. その他 ()

問8. 本学に設置予定の社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）を修了した人材について、これからの社会でどの程度必要だと思われますか。

1. とても必要だと思う
2. ある程度必要だと思う
3. あまり必要だと思わない
4. まったく必要だと思わない

1、2 を選ばれた方は問9へお進みください。
3、4 を選ばれた方は問13へお進みください。

問9. 本学に設置予定の社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）修了者の採用を考えますか。

1. 積極的に採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1、2 を選ばれた方は問10へお進みください。
3 を選ばれた方は問11へお進みください。

問10. 本学に設置予定の社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）修了者を何人程度採用したいですか。

1. 1人
2. 2人
3. 3人以上
4. 人数は未確定

番号でご回答ください

問11. 貴団体等の従業員・職員から本学に設置予定の社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）に進学したい [学費は職員の自己負担として]と申し入れがあった場合、受験を認めますか。

1. 認める
2. 条件が合えば認める
3. 認めない
4. その他 ()

問12. 貴団体等では、従業員・職員の学位取得を支援する制度をお持ちですか。

1. 有給休暇を与え、かつ学費等を雇用主が負担し、業務として派遣する制度がある
2. 有給休暇は与えないが、従業員・職員が望めば、退職等で籍を残したまま派遣する制度がある
3. 働きながら就学する場合、学費の全額または一部を雇用主が負担する制度がある
4. 学費の補助はないが、働きながら学びやすいように職務上の調整を行う制度がある
5. 制度はないが、個別判断で従業員・職員の学位取得等を支援している
6. その他 ()

問13. 本学社会健康医学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置構想について、ご意見・ご要望などをお聞かせください。その他、大学の教育内容・活動等についてご希望がございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

静岡社会健康医学大学院大学 教務課（担当：石井、石原）
〒420-0881 静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号 電話：054-295-5401

計画概要



静岡社会健康医学大学院大学

社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 博士後期課程（仮称）

研究科の概要

■ **開設時期** 令和5年（2023年）4月

■ **修業年限** 3年

■ **入学定員** 2人

■ **取得学位** 博士（社会健康医学）

※英訳名称 Doctor of Philosophy in Public Health（Ph.D）

■ **養成する人材像**

公衆衛生学のコア5領域はもとより、最新の生命科学や情報解析学など関連領域の学識を基本に、社会が必要とするエビデンスの導出とその社会実装を通じて広く人々の健康に貢献できる能力を身につけた研究者を育成します。

設置構想中

研究科の教育内容と特色

【カリキュラムの内容】

基礎科目

社会健康医学の最先端で研究を牽引している様々な研究者を招き、研究の内容や成果、社会実装に対する取り組みなどについて実践的に学ぶ。

特別演習科目

社会健康医学の課題解決に向けて科学的に適切な研究計画を作成し、計画に沿って具体的に研究を進め、成果を取りまとめて発表するための能力を涵養することを目的に、論文抄録、研究成果の中間発表と討議、特別講演などで組成する。

（※本学修士課程を修了せず、かつ他大学院において相当科目を学修していない者には、修士課程の一部の科目履修を推奨）

特別研究科目

社会健康医学における具体的な課題を自ら設定し、当該領域の学術的發展に寄与するとともに実践的な課題解決に向けた方策の提案にも貢献する研究を行う。

【教育の特色】

- 公衆衛生コア5領域を基盤に、ゲノム医学や医療ビッグデータ解析などの新たな学術領域を加えた、幅広い学識の修得
- 静岡県民220万人8年分の健診、医療・介護レセプトデータや静岡県内2万人規模の地域住民コホートなど県・市町と連携した多様な研究フィールドを展開
- 豊富な研究実績を持つ教員による少人数制のサポート
- 社会人学生の通学にも配慮した土曜日の授業科目

修了後の進路

- アカデミアで社会健康医学を考究するとともに、後進の育成に携わる教育研究者
- 国や地方自治体において行政施策の立案に必要なエビデンスの導出や施策の社会実装に資する研究者
- 医療機関において臨床医療に携わりつつもその環境を活かして最先端の社会健康医学に取り組む医師等に代表される臨床研究者
- 企業において臨床・予防医療に資する薬剤、製品、サービスの開発と社会実装に資する研究者

※本紙の内容は構想中のものであり、変更となる場合があります。

主に、次のいずれかに該当する方が対象です。

- 修士の学位や専門職学位を有する者、又は入学前年度末までに取得見込みの者
- 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者
- 本学において、個別の入学資格審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学の年度当初において24歳に達した者（例：6年制大学の卒業者等）

(単位：円)

大学名・研究科名	入学金	授業料	その他	初年度学費	
静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科	県内居住者	141,000	535,800	—	県内居住者 676,800
	県外居住者	366,600			県外居住者 902,400
神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科	県内居住者	282,000	535,800	—	県内居住者 817,800
	県外居住者	564,000			県外居住者 1,099,800
東京大学大学院 医学系研究科	282,000	520,800	—	802,800	
慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	—	660,000	706,00	730,600	
帝京大学大学院 公衆衛生学研究科	学内出身者	204,000	795,600	208,340	学内出身者 1,207,940
	学外出身者	400,000			学外出身者 1,309,940
聖路加国際大学大学院 公衆衛生学研究科	306,000	1,200,000	300,000	1,900,000	

※本学の博士後期課程の学費は予定です。
 ※本学の博士前期（修士）課程修了見込みの方で、博士後期課程に進学する方については入学金不要です。
 ※他大学院の学費は各大学のホームページ掲載情報に基づきます。（令和3年4月時点）
 ※その他、諸会費が必要な場合があります。

公共交通機関をご利用の場合

- JR静岡駅よりバスで約25分
- ① 上足洗線「北安東四丁目」（徒歩1分）
 - ② 唐瀬線「県立総合病院入口」（徒歩約7分）
 - ③ 県立病院高松線「県立総合病院」（徒歩約5分）
 - ④ 大浜麻機線「北安東三丁目」（徒歩約5分）

車をご利用の場合

国道1号静岡バイパス「唐瀬IC」から約3分
 新東名高速道路「新静岡IC」から約15分
 東名高速道路「清水IC」から約20分、「静岡IC」から約25分
 ※学生は、大学敷地内に駐車可能です。（無料）



【お問い合わせ先】

〒420-0881 静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号
 静岡社会健康医学大学院大学 教務課
 TEL：054-295-5401 E-mail：kyomu@s-sph.ac.jp HP：https://s-sph.ac.jp

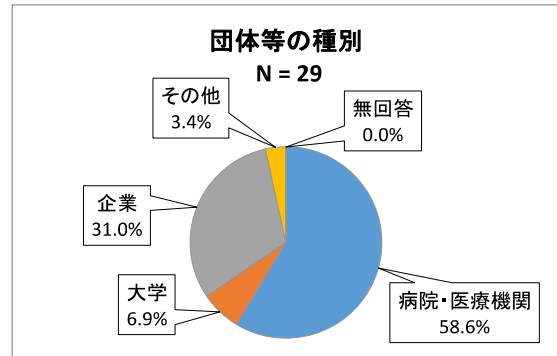
本学ホームページ



單純集計表

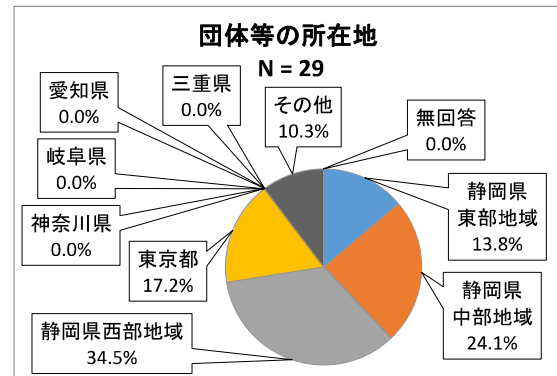
団体等の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院・医療機関	17	58.6
2	大学	2	6.9
3	企業	9	31.0
4	その他	1	3.4
	無回答	0	0.0
	N (% [*] -)	29	100



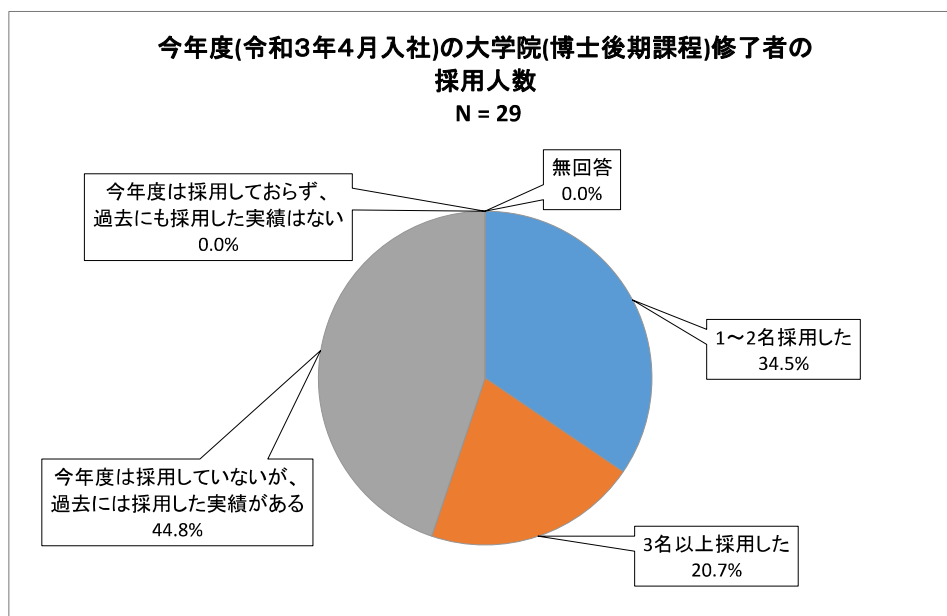
団体等の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県東部地域	4	13.8
2	静岡県中部地域	7	24.1
3	静岡県西部地域	10	34.5
4	東京都	5	17.2
5	神奈川県	0	0.0
6	岐阜県	0	0.0
7	愛知県	0	0.0
8	三重県	0	0.0
9	その他	3	10.3
	無回答	0	0.0
	N (% [*] -)	29	100



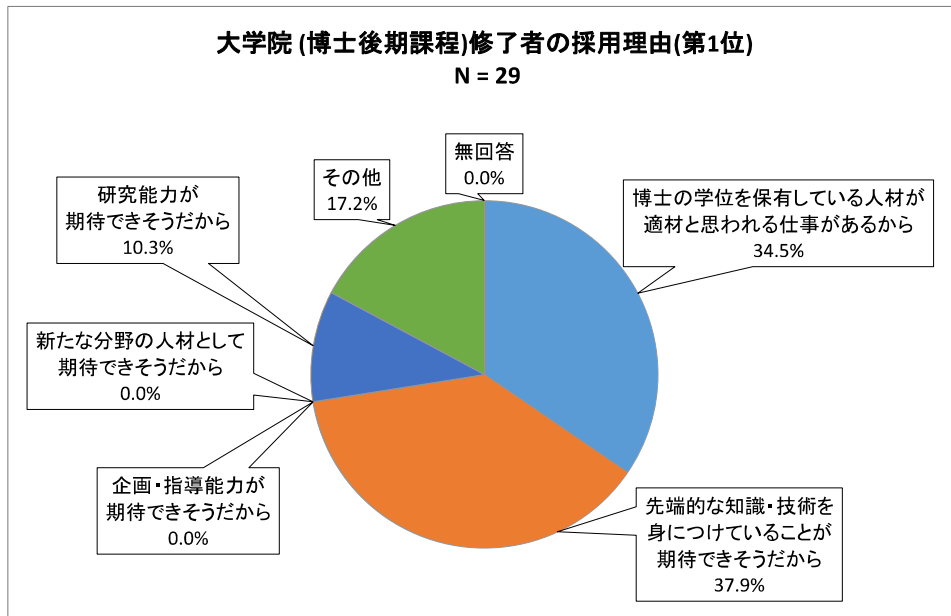
今年度(令和3年4月入社)の大学院(博士後期課程)修了者の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～2名採用した	10	34.5
2	3名以上採用した	6	20.7
3	今年度は採用していないが、過去には採用した実績がある	13	44.8
4	今年度は採用しておらず、過去にも採用した実績はない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	29	100



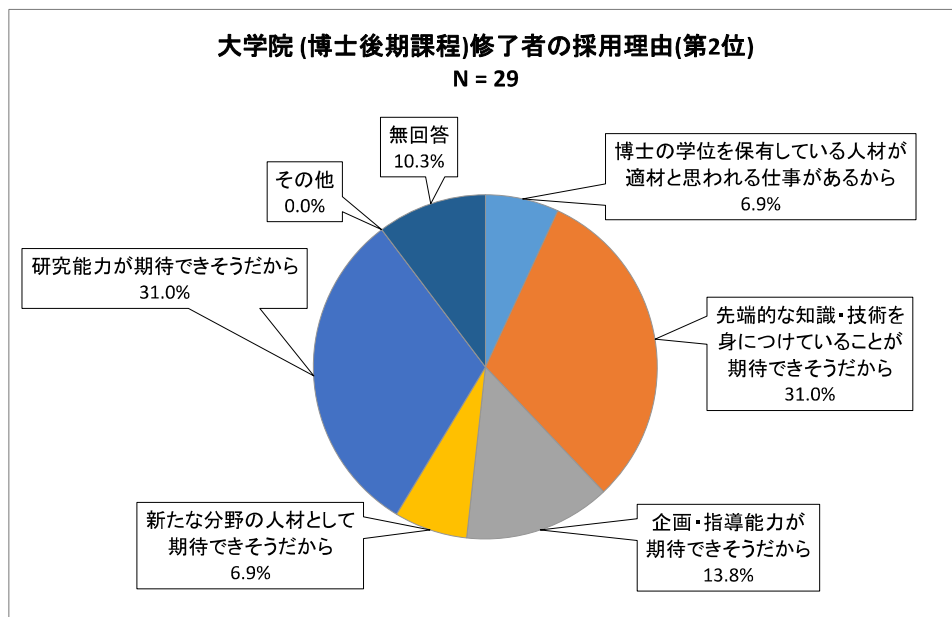
大学院 (博士後期課程)修了者の採用理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	博士の学位を保有している人材が適材と思われる仕事があるから	10	34.5
2	先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから	11	37.9
3	企画・指導能力が期待できそうだから	0	0.0
4	新たな分野の人材として期待できそうだから	0	0.0
5	研究能力が期待できそうだから	3	10.3
6	その他	5	17.2
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	29	100



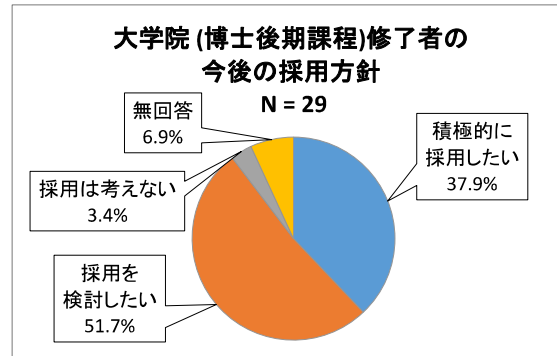
大学院(博士後期課程)修了者の採用理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	博士の学位を保有している人材が適材と思われる仕事があるから	2	6.9
2	先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから	9	31.0
3	企画・指導能力が期待できそうだから	4	13.8
4	新たな分野の人材として期待できそうだから	2	6.9
5	研究能力が期待できそうだから	9	31.0
6	その他	0	0.0
	無回答	3	10.3
	N (%ベース)	29	100



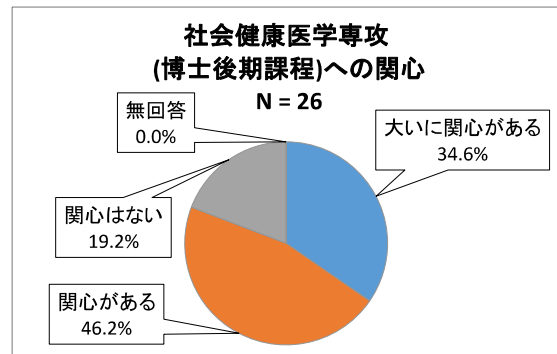
大学院 (博士後期課程) 修了者の今後の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用したい	11	37.9
2	採用を検討したい	15	51.7
3	採用は考えない	1	3.4
	無回答	2	6.9
	N (%ベース)	29	100



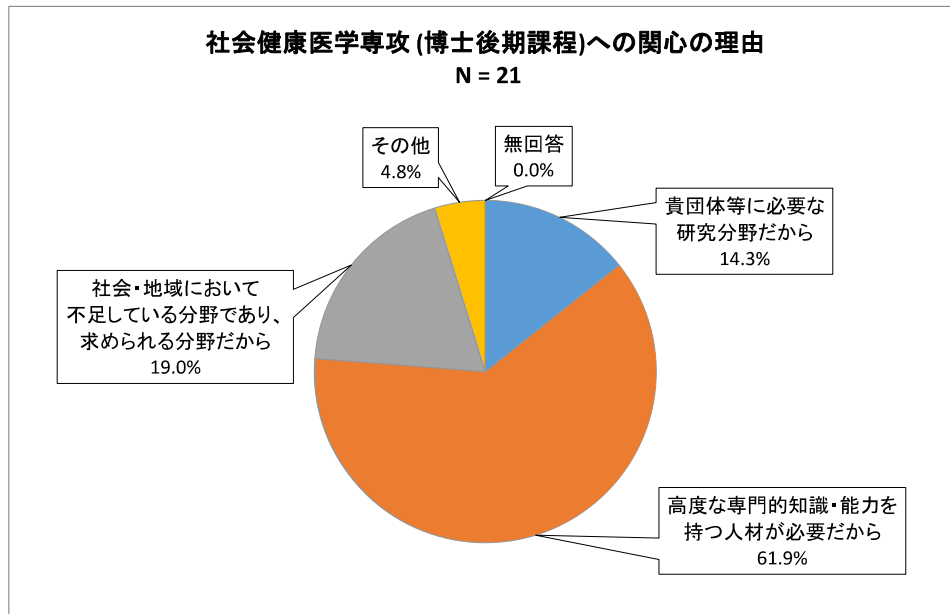
社会健康医学専攻 (博士後期課程) への関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに関心がある	9	34.6
2	関心がある	12	46.2
3	関心はない	5	19.2
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	26	100



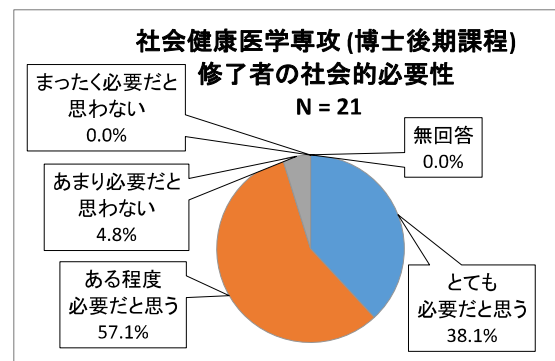
社会健康医学専攻 (博士後期課程) への関心の理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	貴団体等に必要な研究分野だから	3	14.3
2	高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから	13	61.9
3	社会・地域において不足している分野であり、求められる分野だから	4	19.0
4	その他	1	4.8
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -s)	21	100



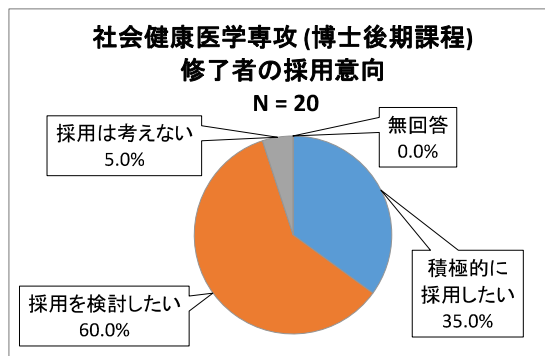
社会健康医学専攻 (博士後期課程) 修了者の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	とても必要だと思う	8	38.1
2	ある程度必要だと思う	12	57.1
3	あまり必要だと思わない	1	4.8
4	まったく必要だと思わない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -s)	21	100



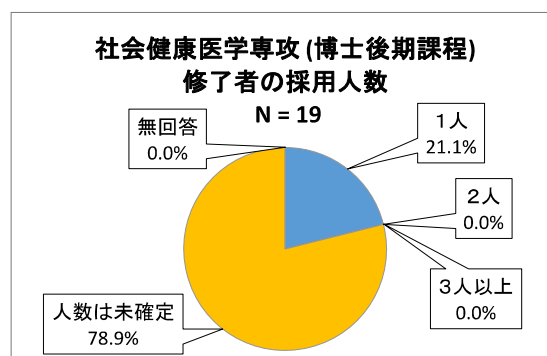
社会健康医学専攻(博士後期課程)修了者の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用したい	7	35.0
2	採用を検討したい	12	60.0
3	採用は考えない	1	5.0
	無回答	0	0.0
	N (%へ-ス)	20	100



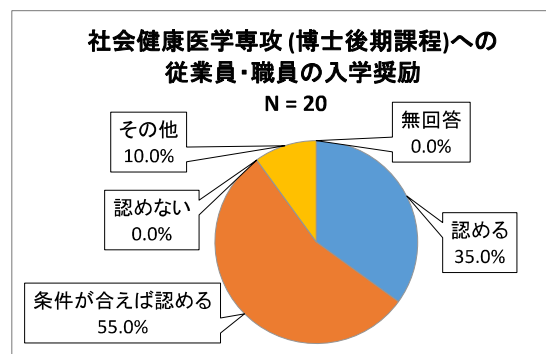
社会健康医学専攻(博士後期課程)修了者の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	4	21.1
2	2人	0	0.0
3	3人以上	0	0.0
4	人数は未確定	15	78.9
	無回答	0	0.0
	N (%へ-ス)	19	100



社会健康医学専攻(博士後期課程)への
従業員・職員の入学奨励

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	認める	7	35.0
2	条件が合えば認める	11	55.0
3	認めない	0	0.0
4	その他	2	10.0
	無回答	0	0.0
	N (%へ-ス)	20	100



従業員・職員の学位取得等支援制度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	有給休暇を与え、かつ学費等を雇用主が負担し、業務として派遣する制度がある	1	5.0
2	有給休暇は与えないが、従業員・職員が望めば、退職等で籍を残したまま派遣する制度がある	3	15.0
3	働きながら就学する場合、学費の全額または一部を雇用主が負担する制度がある	7	35.0
4	学費の補助はないが、働きながら学びやすいように職務上の調整を行う制度がある	2	10.0
5	制度はないが、個別判断で従業員・職員の学位取得等を支援している	6	30.0
6	その他	1	5.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	20	100

